

全日本医師剣道連盟報



(全日本医師剣道連盟創立 60 周年記念ロゴ)

第 28 号 平成 31 年 2 月

全日本医師剣道連盟

事務局 〒305-0044 茨城県つくば市並木 3-23-25

林 明人 TEL & FAX: 029-855-7446

e-mail: info@japan-medical-kendo.jp

ご案内

第 54 回全日本医師剣道大会 ～どんとこい東京大会～

(全日本医師剣道連盟創立 60 周年記念大会)



第 54 回全日本医師剣道大会が東京で開催されることになり、第 46 回全日本医師剣道大会が東京で開催される予定でしたが東日本大震災で開催中止となりました経緯があり、今回も平成最後の年となり 5 月に改元されることになり（新元号にするため 10 日間の連休が実施されることになりました。）翌年 2020 年にはオリンピック・パラリンピック大会が東京で開催予定されており、一時は大会運営上大きな困難を伴うことが予想され、再度、医師剣道大会の開催の延期、または中止を考えざるを得ない状態でしたが、大会準備委員の皆さんの大会開催への熱意とその他多くの関係者の協力・尽力により、大会開催に向け努力すること

となり、今日に至りました。

”どんとこい東京”「第 54 回全日本医師剣道東京大会」

全国の先生方は日々「医剣一如」「医剣不岐」の理念を持ち生涯剣道の修行に励まれておられていると思います。

毎日の生活は剣道修行そのものと思い、毎日を過ごしているつもりですが、剣の道は奥が深く、日常の生活との乖離は広がるばかりです。竹刀をとって以来半世紀以上の時が過ぎ、ただ、続ける事と思いながらも、生活環境の変化や老化現象との闘いではありますが、ただただ続けるのみです。これが生涯剣道でしょう。

先生方の全日本医師剣道東京大会でのご活躍を願いたします。

第 54 回全日本医師剣道大会（どんとこい東京大会）

大会会長 稲村征夫

大会日程

開催日時 2019 年 5 月 18 日(土)・19 日(日)
大会会場 東京医科大学記念館
〒160-8402 東京都新宿区新宿 6-1-1
懇親会会場 ハイアットリージェンシー東京
〒160-0023 東京都新宿区西新宿 2-7-2

【大会日程】

5 月 18 日(土)	12:00 ~	受付開始(於:東京医科大学記念館)
	13:00	開会式
	13:30 ~	審査形式試合
	15:00 ~	高段者元立ち稽古
	15:40 ~	自由稽古(16:30 終了)
	17:45 ~	幹事会(於:ハイアットリージェンシー東京)
	19:00 ~	懇親会(於:ハイアットリージェンシー東京)
5 月 19 日(日)	8:00 ~	自由稽古
	8:45	集合写真
	9:15 ~	団体戦
	11:30 ~	—— 休憩 ——
	12:00	警視流木太刀形
	12:15 ~	拝見試合
	13:00 ~	個人戦
	14:30	閉会式

【大会参加費】 20,000 円(宿泊費別)

会長	稲村 征夫
副会長	荻原 一郎
実行委員長	荻原 幸彦

【アクセス】



大会会場(東京医科大学記念館)

丸ノ内線: 「新宿御苑前駅」3 番出口より 徒歩約 7 分

副都心線・都営新宿線: 「新宿三丁目駅」C7 出口より 徒歩約 10 分

懇親会会場(ハイアットリージェンシー東京)

大江戸線: 「都庁前駅」A7 出口 C4 連絡通路経由 徒歩 1 分

丸ノ内線: 「西新宿駅」より 徒歩約 4 分

大会会場 → 懇親会会場

タクシー: 約 10 分(約 1,000 円)

第 54 回全日本医師剣道大会 事務局

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 6-7-1 東京医科大学麻醉科学分野内

TEL: 03-3342-6111 FAX: 03-5381-6650

実行委員長 荻原 幸彦

Email: yogihara@tokyo-med.ac.jp, 携帯: 090-1040-3596

副実行委員長 塚原 清彰, 稲垣 太郎

全日本医師剣道連盟創立 60 周年を迎える東京大会



全日本医師剣道連盟

会長 大柁 廣伸

第 53 回いわて大会が北上総合体育館で盛大に開催されてから、約 8 ヶ月が経過致しました。第 54 回全日本医師剣道大会は、関東医師剣道連盟会長稲村征夫先生が大会会長を務められ、2019 年 5 月 18 日（土）・19 日（日）に東京医科大学記念館にて開催予定です。

昭和 34 年（1959 年）4 月に東京で開催された第 15 回日本医学会総会時に全日本医師剣道連盟が誕生して、次回東京大会で丁度 60 周年という人生で云う所の還暦を迎える事となります。結成の核心となった故伊藤京逸先生・故松川金七先生・故高岡謙次先生を初め、お三方のご意志を継いで来られた先人の方々を偲ぶ意義深い大会となるでしょう。大勢の皆様のご参加をお待ち致しております。そして多くの剣友と旧交を温める時間を共有したいと思います。また、今まで医師剣道大会に参加されなかった剣友・・・特に大学卒業後剣道を休止している若い先生方にも是非参加を促して戴きたく、積極的な勧誘をお願い致します。

さて既にアナウンスされている事ですが、連盟事務局長林明人先生を核に全日本医師剣道連盟シンボルマークのラベルボタンを作成致しました。連盟会員の方々が大会時上着の襟に装着し、大会に参加者される先生方の心が一つになるグッズとして活用をお願い致します。

私から更なる提案がございます。次回東京大会幹事会でご承認を戴く事業になりますが、今までの大会を総纏めにした創立 60 周年記念誌を製作したいと存じます。今まで各大会にはそれぞれ立派なプログラムが作成されております

が、数年経過しますと紛失してしまう恐れもあり、今までの大会プログラムの大会長挨拶文或いは集合写真や会員の皆様による「思い出」の文章などを1冊に纏めて置きたいと思っております。各大会の資料をお持ちの先生は事務局までご連絡戴けると幸いです。「思い出」の投稿（文字数制限無く、写真も歓迎）にご協力戴ける先生は、早めに文章を作成して戴きたく存じます。

第30回日本医学会総会は、2019年4月27日（土）～29日（月・祝）名古屋国際会議場を主会場として開催されますが、5月18日（土）・19日（日）開催予定の第54回全日本医師剣道大会会場は、東京都新宿区に位置する東京医科大学記念館ですので、剣友の方々にお間違えの無い様にアナウンスの程、重ねてお願い申し上げます。

合掌



武道の国際化・剣道の国際的普及について

佐 藤 成 明



プロフィール

昭和 13 年(1938)4 月 28 日生まれ

学歴

昭和 32 年 3 月 栃木県立宇都宮高等学校卒業

昭和 36 年 3 月 東京教育大学体育学部体育学科卒業

昭和 38 年 3 月 東京教育大学体育学部専攻科体育運動学修了

昭和 41 年(1966)3 月東京教育大学大学院教育学研究科修士課程 教育心理学専攻 修了

職歴

駒澤大学文学部助教授、東京教育大学体育学部文部教官、筑波大学講師、助教授、教授 定年退官 筑波大学名誉教授
国士舘大学体育学部客員教授 日本武道館武道学園講師

剣道歴

役職 現・全日本剣道連盟審議員、全日本学校剣道連盟審議員、
元・茨城県剣道連盟会長現・関東学生剣道連盟会長、全日本学生剣道連盟副会長
昇段・昇格

剣道八段 昭和 61 年(1986)5 月 剣道範士 平成 6 年(1994)5 月

出場した主な剣道大会

世界剣道選手権大会(選手およびコーチ)、全日本剣道選手権大会、全日本東西
対抗剣道大会、国民体育大会剣道競技、全日本都道府県剣道大会、明治村剣道
大会、全国教職員剣道大会 等

主な審判長歴

世界剣道選手権大会、全日本剣道選手権大会、全日本東西対抗剣道大会、国民
体育大会(2 回)、全日本選抜剣道八段優勝大会、全日本家庭婦人剣道大会、全国
教職員剣道大会

全日本学生剣道選手権大会及び優勝大会

その他

元・日本武道学会副会長 現・日本武道学界顧問
NHK テレビスポーツ教室「剣道」講師

武道の国際化について

武道は嘗てないほどの勢いで世界各国に普及されつつあります。

武道とは「日本で発祥し発展した武術の総称」といった捉え方が日本では一般的です。具体的に言えば、日本武道協議会に加盟している柔道、剣道、弓道、相撲、空手道、合気道、少林寺拳法、なぎなた、銃剣道の九種目。更には、古武道と称される古来の流派や技術等が武道として一般的に理解されています。

実際には、これ以外にも数多くの武道と称する技術が存在しており、そういう意味では日本における武道の概念は漠然としています。

一方、海外では日本以上に漠然としています。例えば、武道という名称で人々が連想するのは、先ず「空手道」です。情報の偏りにも原因があると思われますが、日本人の殆んどが空手道を習っていると信じているケースも珍しくはありません。次いで柔道、その他の種目では合気道、少林寺拳法、剣道と続きますが、それ以外は名称すら知られていない場合も多いのです。海外特有の現象としては武道として「忍術」の人気の高いこと、あるいは、キックボクシングやテコンドーといったアジア発祥のスポーツまでもが「武道」として理解されている場合も少なくないのです。

武道の国際化とは

ところで、武道における国際化とは何を意味しているのでしょうか。

国際化とは「異なる国家、人種、民族などの文化的な特性を認め合い、相互の交流を図ること、あるいは、それを礎にして産業や経済活動の供与を促進し、ひいては世界平和に寄与すること」であると解釈されています。この意味から武道の国際化とは「武道という文化現象の普及を通じて、我々が国際交流を深めたり国際平和に貢献すること」と解釈することが出来ます。しかし、これはあくまでも概念上の国際化に過ぎず、実際に世界の人々は様々な考えを持って武道に携わっています。

このような観点から、武道が「海外の人々にどの様に受け入れられ」国際化が急速に進むなかで「どの様な問題に直面しているのか」という事柄を把握することによって、武道が一つの文化現象として、これまで以上に広く世界に定着していくのに、我々が「どの様な観点に立って武道を捉えなおすべきか」について考える手掛かりの一端をここに記してみます。

武道を習う目的意識・日本との相違点

私達が武道を習う目的は千差万別ですが、その内容を整理してみると

① 実用性 ② 競技スポーツ性 ③文化性

の三つに分類することが出来るでしょう。

ところが、海外においては同じ武道を行っていながらも質的にはかなり異なった意識を持っていることに気付かされることがあります。

武道が海外の人々にどの様に受け容れられているかを通して、日本と海外の武道愛好者の間に見られる目的意識について少々触れてみたいと思います。

① 実用性

特に若い男性が身体を鍛え、誰よりも強くありたいと望む気持ちは万国共通です。武道を習う目的の一つは「格闘技としての実用性」にあります。

海外で実用性を求める愛好者には、圧倒的な割合で「空手道」を習うケースが多く、次に「柔道」「合気道」「少林寺拳法」などの素手で行う種目に人気が集まっています。この傾向は日本でも同様であろうと思われますが、人々の意識には少なからず異なる性質を見ることが出来ます。

世界各国で治安事情の悪い地域、日常生活の中で暴漢に襲われたり犯罪に巻き込まれるといった危険性の高い発展途上国や実際に戦闘が行われている地域に暮らす人々にとって、危険から身を守るための「護身術」としての素手で行う武道(武技)が高く評価され行われていると思われるのです。

武道に実用性を求める意識に限って言えば、治安が比較的安定している日本よりも海外の方が間違いなく実用性への動機付けが高いと言えるでしょう。

② 競技スポーツ性

競技スポーツ性は、現代武道の有する特徴の一つですが、近年、海外では競技スポーツとしての武道を楽しむ人の数が増えています。

競技スポーツとして人気のあるのは、オリンピック種目である「柔道」、そして愛好者が圧倒的に多い「空手道」です。2020年の東京五輪では正式種目となりました。その他、少林寺拳法、剣道、相撲、居合道、柔術などが競技が行なわれる種目としありますが、何れも柔道、空手道の比ではありません。

また、愛好者は、単に優れた競技成績を残すことだけを求めているわけではありません。他のスポーツと同様に健康の増進や仲間造り、ストレス解消といった副次的な効果も期待されているようです。こういった点では日本の愛好者と変わることはないと言えます。

ところが、同じ武道であっても、日本と海外とではかなりの意識のレベルに違いを感じるがあります。

例えば、「日本の武道は、何故サッカーや野球のようにプロ化されないのか」ということを海外ではよく尋ねられることがあります。日本ではまず聞かれない質問です。海外では競技スポーツ種目が発展するということは、選手やコーチ、クラブや連盟組織の運営者が稼業としてそのスポーツに従事していけるという意味が多分に含まれているのです。特に、スポーツの商業主義化が進んでいる現在、プロが育たないスポーツは発展する可能性も限られてくるし、社会的な評価も受け難い。従って「たとえ武道であろうとも競技スポーツである限りプロ化すべきである」という考え方が一般的に浸透しています。実際、柔道や空手道の世界では、選手、指導者ともにプロ化が進行し

ているようです。

日本の武道振興は、基本的に学校教育や社会体育の現場を中心に行われています。つまり、武道を教育手段の一つとする考え方が強く働いているのです。

これは武道の伝統的な特性であります。武道が欧米の競技スポーツ並みに発展しない一つの理由かも知れません。

日本でも海外でも、武道を競技スポーツとして楽しむ点では同じですが、それを「社会の中でどの様に位置付けて行くか」という発想においては、明らかに求める方向が異なっていると思うのです。

③ 文化性

海外における愛好者の武道への憧憬が「日本固有の文化的特性」にあることは広く知られているところです。

こういった傾向は、全ての愛好者に見られますが、とりわけ剣道、居合道、なぎなた、杖道といった伝統的な武器を使用する種目の愛好者が多いようです。その関心は「技術そのものに留まらず、芸術品としての刀剣であったり、それを使った武士の精神性であったり」と、日本文化そのものに直結している点に特徴があります。日本文化や日本語を学ぶ一環として武道の門を叩くといった逆パターンも海外では珍しいケースではありません。

剣道の海外への普及

平成 30 年(2018)9 月 14 日から 16 日まで第 17 回世界剣道選手権大会(17WKC)が韓国・仁川(インチョン)で 56 ヶ国・地域からの参加を得て開催されたことは記憶に新しい事です。

第二次世界大戦敗戦後、禁止されていた剣道の今日までの歴史を概観する時、戦前の剣道界ではさして重視されていなかった「剣道の国際的な普及」と「女性の剣道界への大幅な進出」が特筆されます。ここで、「剣道の国際的な普及」についての記憶を辿ってみます。

第二次世界大戦敗戦以前の海外における剣道活動の拠点は、大別してアメリカ本土西海岸、ハワイ、カナダ、ブラジル、アルゼンチン等の日系移民社会と日清・日露戦争後に長く日本の統治下にあった台湾、朝鮮、満州にありました。戦後の昭和 30 年代の後半頃からヨーロッパの各国や香港、マレーシア、シンガポール、オーストラリア、ニュージーランドなどでも少人数ではありましたが、剣道愛好家の存在がありました。

剣道を始めた動機には色々ありましたが、昭和 39 年(1964)10 月に開催されたオリンピック東京大会に柔道が正式種目として採用されたことも大きな要因として考えられます。また、当時、ヨーロッパの各国で禅や茶道、華道、書道、浮世絵、そして武士道などの精神性を追究する日本文化に深い関心が寄せられ東洋ブームとか日本ブ

ームなどと謂われていたなかで、武道にも関心が寄せられるようになりました。

柔道からスタートした多くの人々がややもすれば競技性が中心の柔道から文化性、精神性を重視する剣道に関心が広がるようになり、剣道が活発に行われるようになりました。Victor Harris 氏の「五輪書」の英訳、笹森順造、W・Gordon 氏共著の「This is Kendo」の刊行、黒澤明監督・三船敏郎主演による映画「三匹の侍」「椿三十郎」「用心棒」などの作品も剣道に目を向ける動機となっていたようです。現在でも丁髷を結って陣羽織、雪駄履きの妙なスタイルで闊歩する「変な外人」が世界の各地で散見されることがあります。

多くの場合、日本からの官民の海外駐在員や留学生などが現地の体育館などで剣道を紹介しクラブ的な活動から始め、やがて全日本剣道連盟（以後、「全剣連」と略称）からの公式剣道使節団の派遣、要請に応じて全剣連からの指導者派遣などを通して「正しい剣道の理解と技術向上を図るための活動」が始まり、各国の組織化（剣道連盟・剣道協会の設立）が進むにつれて講習会や大会、昇段審査会などが盛んに行われるようになりました。

昭和 40 年(1965)11 月に台北市(台湾)で開催された「第 1 回国際社会人剣道大会」、昭和 42 年(1967)10 月に日本武道館で開催された「国際親善剣道大会」を契機に「国際剣道連盟」の結成と「世界剣道選手権大会」の開催が決議され、その計画、準備の一切が日本に一任されました。当時、全剣連では利岡和人渉外委員長、笠原利章常任理事(後の国際剣道連盟事務総長)を中心に準備・計画の作業に着手していました。私はこの時期に渉外委員を委嘱され(渉外委員会は後に全剣連・国際委員会と名称が改められました)、国内外に山積する国際関係の諸問題処理に関わるお手伝いをするようになりました。

世界への剣道普及の出発点となった国際剣道連盟(IKF)創立総会(1970)

昭和 45 年(1970)4 月 4 日、東京ヒルトンホテル会議室において国際剣道連盟(International Kendo Federation IKF 現在は FIK)の設立総会が開催され、IKF 設立の確認、規約の制定、加盟国の承認がなされ、役員が選出されました。世界剣道選手権大会(World Kendo Championships WKC)が 3 年毎にアジア、アメリカ、ヨーロッパの 3 ゾーン持ち回りで開催することも決定されました。

加盟国は、オーストラリア、ベルギー、ブラジル、カナダ、フランス、西ドイツ、イギリス、大韓民国、モロッコ、オランダ、中華民国、スウェーデン、スイス、アメリカ、日本の 15 カ国で、他に総会の特別決議によるハワイと沖縄(当時、沖縄はアメリカの統治下にありました)の 2 地域を加え、計 7 団体の加盟が承認されました。会長には木村篤太郎全剣連会長が就任、副会長に徐廷学(韓国)、大谷一雄(日本)、胡偉克(中華民国)、中原虎太郎(アメリカ)、R. フォン・サンドル(スウェーデン)、の各氏が選出され、理事に T.戸井田(ブラジル)、M.野田(カナダ)、謝徳仁(中華民国)、A.ゴメス(フラ

ンス)、R. クヌッセン(イギリス)、都鎬文(韓国)、滝沢光三(日本)、G. スタンゲル(スウェーデン)、T. 中原(アメリカ)、事務総長に笠原利章(日本)、監事に S. 吉永(ハワイ)、C. デュリックス(モロッコ)の各氏が選出されました。私は役員としてこの歴史的会議に陪席を許されました。

当夜の椿山荘での歓迎レセプションは盛大なものでした。

尚、平成 30 年(2018)現在で加盟は 59 国・地域となっています。また、次期開催国はフランスに決定しています。

世界剣道選手権大会(World Kendo Championships WKC)

第 1 回世界剣道選手権大会は昭和 45 年(1970)4 月 5 日に日本武道館で国別団体戦を、4 月 10 日に大阪中央体育館で個人戦が開催されました。この時期、大阪では日本初の「万国博覧会(Expo. 70)」が開催されていました。

団体戦は第 1 回大会以来、今回の第 17 回大会までに第 13 回大会(台湾)での大会で一度優勝を逃した以外、日本が覇権を握っています。個人戦の第 1 回大会選手権者は大阪の小林三留選手でした。

平成 12 年(2000)に開催の第 11 回大会(アメリカ)より女子団体戦、個人戦が設置され、河野朋子選手が選手権者となり、団体戦は第 17 回大会まで連覇しています。

私は、第 3 回のイギリスでの大会に選手として、第 8 回カナダ(トロント)大会に日本チームのコーチとして参加、第 14 回大会(ブラジル)での審判主任、第 16 回大会(東京)での審判長の大役を仰せ付けられました。

尚、第 16 回大会から従来 3 ゾーン持ち回りでの開催制から立候補により開催地が決められるようになりました。

外国剣士のための夏期講習会

全剣連が主催している外国剣士のための夏期剣道講習会(通称 Summer Camp)の第 1 回目は昭和 50 年(1975)に千葉県勝浦市の日本武道館研修センターで開催されました。翌年の第 2 回からは埼玉県北本市の「解脱錬心館」を会場として今日まで継続され、多くの国々から多数の剣士が参加し、帰国後は各国の指導者として活躍、剣道普及の一翼を担っています。私は第 2 回から平成 26 年まで、講習会の役員・講師として運営と指導に当たってきました。寝食を共にした合宿を通して言葉や習慣の違う外国剣士に対する指導の難しさや楽しさを経験しました。受講生の真剣な剣道のみならず日本文化理解への取組みに接し、あらためて私自身の剣道指導の在り方、ひいては剣道の在り方について学ぶことが多々ありました。また、世界中に多くの剣友を得る機会ともなりました。

指導書等の刊行への携わり

海外への剣道普及に当たっての全剣連発行の欧文(英語)による指導書等の作成にも及ばずながら携わりました。中野八十二先生との共著による「Fundamental kendo」(日貿出版)、映画「Door to Kendo」(英、独、仏、日本語のナレーション付き・(株)東文)、「Kendo Fundamentals I,II」(全剣連・改訂版幼少年剣道指導要領の英訳)、「Nippon Kendo Kata」(全剣連・日本剣道形解説書の英訳)、「剣道英和辞典」(全剣連)、「木刀による剣道基本技稽古法(英訳)」、「全剣連剣道指導要領(英訳)」の他に日本武道館の「武道憲章」「子ども武道憲章」「武道の理念」の英文翻訳にも携わりました。



ドイツ剣道連盟研修会にて Ralf Lelimam 氏との日本剣道形

私の経験した全剣連等の派遣による海外での主な剣道普及及び活動

① 昭和 48 年(1973)

国際交流基金・全剣連派遣の東南アジア 3 カ国(香港・マレーシア・シンガポール)及びヨーロッパ 4 カ国(オーストリア・西ドイツ・フランス・イギリス)歴訪

② 昭和 51 年(1976)

第 3 回世界剣道選手権大会を機に(イギリス・イタリア・スイス・西ドイツ・フランス)歴訪。スイスでデッドビラー氏の道場を訪問。

③ 昭和 56 年(1981)

第 5 回ヨーロッパ剣道選手権大会を機に(西ドイツ・イギリス・フランス・スイス・オランダ・ベルギー)歴訪

- ④ 昭和 59 年(1984)
国際交流基金・全剣連派遣(ブラジル・アルゼンチン・ペルー・メキシコ)歴訪
- ⑤ 昭和 63 年(1988)
国際交流基金・全剣連派遣(メキシコ・ブラジル・アルゼンチン・ペルー)歴訪
- ⑥ 平成 4 年(1992)
全剣連派遣
(香港・マレーシア・シンガポール、ニュージーランド・オーストラリア)歴訪
- ⑦ 国際剣道連盟審判講習会講師として
アメリカ、香港(2 回)、台湾(2 回)、ベルギー。
- ⑧ 国際剣道連盟派遣 国際剣道連盟未加盟国での審査会審査員及び講習会講師として
中国(2 回)・モンゴル。(その後、両国とも FIK に正式加盟国となりました。)
- ⑨ 第 1 回コンバットゲーム
中国(北京) 日本剣道形演武
- ⑩ 平成 4 年(1992)より
ドイツ剣道連盟(DKB)の招聘により、剣道研修会の講師として毎年参加。

海外への普及のための指導者について

全剣連を中心に多くの剣道愛好者の皆さん、特に派遣された指導者の尽力によって剣道は健全な方向に普及・発展がなされていると思われます。その指導の基底にあるのは単なる競技力の向上にのみを主眼とするのではなく、海外の人々が求める「日本で生まれ育った文化としての剣道の在り方」の指導と普及にありました。基礎・基本・日本剣道形への取り組みには見るべきものがあると思われます。特に日本剣道形についての関心と取り組み方については、或は、日本の学生、一般剣道愛好者の皆さんよりも遥かに上を行っているのではないかとさえ思うことがあります。例えば、剣道初段受審には日本剣道形・太刀七本、小太刀三本全てが出来ることが課せられている国さえある程ですから、当然、形に対する理解、取り組みも立派です。

国際剣道連盟が発足してから半世紀が経過しようとする昨今、特に競技剣道を中心に国際的に「剣道の独り立ち」の機運が高まっているのも確かです。当然のことでしょう。しかし、多くの国々の剣道指導者をはじめ愛好家達は「今は日本の剣道の本質、望ましい剣道の在り方について学ばなければならない時期である。日本からの指導と援助を期待する」との意識が圧倒的に強いことは確かです。

これから、剣道を通して国際的に関わる機会が多くなるであろう学生を初め若い皆さん自身の剣道への取り組みに期待するところ大なるものがあります。

競技としての剣道について

競技剣道として、剣道に勝負があるからには勝利に向かって最大の努力を傾注して

「勝利に向かって邁進する」ことは当然のことです。しかし、そこには次のような幾つかの問題点が考えられます。

① 試合・審判規則の変更

当然、現行の規則が最善のものとは思われませんが、ある意味での西洋的合理主義によって規則の変更を図ろうとする考え方も皆無ではありません。剣道の本質に関わる問題が多々考えられます。

後にも触れることになりますが、試合を有利に展開するための剣道具、竹刀等の改造の問題も現に起きています。

② 妙に偏ったナショナリズムが惹起されること が考えられます。

③ 偏った勝利至上主義も問題です。勝負があるからには勝利に向かって邁進するのは当然ですが、一般に言われる偏った勝利至上主義については、それぞれが考えなければならないところです。

④ スポーツ界に蔓延する過度の商業主義の問題です。私共はスポーツにおけるアマチュアリズムということを叩き込まれて育ちました。今日ではスポーツ界におけるアマチュアリズムという語は死語なのですね。スポーツの大会開催に多額の資金が必要なことは理解出来ます。五輪はお金が儲かると悟ったあのロス五輪以来、20年の東京五輪でも独占的な多額のTV放映権料等に拘束されて肝心の競技者や観衆のことなど無視されている状況はどうでしょうか。また、競技者が数々のスポンサーの広告塔として踊らされてはいないでしょうか。剣道もそれに毒されかねません。

TVにて選手の顔・表情が分かり易いようにと企画され公認されている顔の見えるポリカーボネート製の面(最近あまり流行ってはいないようですが)や剣道着を色彩化することなど、剣道の本質には直接関係の無いことではと思いますが、皆さんはどう考えますか？

⑤ 時代の趨勢でしょうが、スポーツ選手のエンターテインメント化の問題。勝利者にガッツポーズをさせたり、メダルを齧らせたり、わざわざメダルを掛けさせて会場に臨ませたり、何よりも、大会前に出来もしない大言壮語を発して、結果はダメでしたと後で涙を流す。これも時代の流れでしょうか。大衆に迎合するように仕向けられているのです。自己PRも強すぎるのです。なによりも、スポーツマンに謙虚さが薄れてしまっているようです。

剣道のオリンピック(五輪)への参加に対して

剣道のオリンピックへの参加に対しての賛否の意見は多々あります。この問題に関する個人的な愚見を少々述べてみたいと思います。

今や、オリンピックでのアマチュアリズムの精神は全く死語となってしまったことは既に述べました。大会はプロの選手のものとなってしまいました。当然そこには金銭的

なものが絡みます。優勝したら一億円が贈られるなんてことが罷り通っているスポーツ界です。そして、戦後日本がはじめて参加した昭和 27 年(1952)のヘルシンキオリンピック大会あたりから国威発揚のための国家が養成する「ステート・アマ」の出現は偏った勝利至上主義をもたらし、昨今では国家ぐるみの「ドーピング」の問題までもが浮上している有様です。加えてオリンピックを中心にスポーツ界が商業主義の渦にどっぷりと入り込んでいます。「金・かね・カネ！」と金銭の大波に呑み込まれてしまっています。選手も恰もエンターテイナーの如く、また、各種の商品の広告塔としてテレビジョンの画面の中で泳がされています。時代の流れの中でのスポーツ界の現状では仕方のないことかもしれませんが、アマチュアリズムの信奉者としては残念至極のことと思っています。

剣道も競技として「勝利に向かって邁進することは当然のことです。」しかし、剣道では「勝利だけが最終の目的ではなく、より精神性、文化性を尊重した人間形成の道であることを標榜する貴重な身体運動文化財である」ことを忘れてはならないと思うのです。国際化の名の下に規則を変更し、剣道本来の姿を変えてしまう可能性も皆無ではない現状にあって、正義・廉恥・礼節を旨とする精神性を最重要視し固守する運動文化「剣道」は今日の偏った勝利至上主義・商業主義に毒されたオリンピックへの参加には個人的な愚見ではありますが「反対の立場」を取らざるを得ません。

剣道の指導者の一人として、「現行の日本で生まれ育った剣道を世界に正しく普及すること」「真の剣道の姿を普及すること」を眼目とした活動を使命としたと思うのです。それが心ある世界の剣友の期待に応える道であろうかと思うのです。若い皆さんにもそうあって欲しいと思うのですが、如何でしょうか？

現在、FIK 加盟国や日本の若者の間に「剣道のオリンピック参加支持」の意見も多数ありますが、日本の剣道界では「オリンピック参加は時期尚早」との意向を示しているのは御承知の通りです。世界選手権大会での日本チームの常勝が日本の FIK 加盟国へのオリンピックへの不参加の意見の強力な意思表示となる筈です。いやなことですが「勝って物の言える」風潮のこの社会です。負けてから言ったのでは「負け惜しみ」になってしまいます。矛盾する意見ですが、この問題に関する限り世界選手権大会での日本選手団の勝利は至上のものであって欲しいと願っている者の一人です。

私の剣道に関する自分小史から

私が剣道具を着けての本格的な剣道を始めたのは昭和 29 年(1954)の 11 月、栃木県立宇都宮高等学校に入学後の一年次の二学期が終わろうとする時期でした。昭和 13 年(1938)生れの私は、第二次世界大戦を挟んだ戦前、戦中、戦後の動乱期の中で幼少年時代を過ごしました。小学校一年生の夏、昭和 20 年(1954) 8 月 15 日の敗戦を知らせる玉音放送をラジオの前で畏まって聞きました。この日を境にして日本の社会情勢は一大転換をしました。連合国軍総司令部(GHQ)の重要な占領政策として、

基本的人権の尊重、民主主義の確立、軍国主義の排除などを含む大々的な教育改革が断行され、学校教育のなかで剣道をはじめ「武道」が「教練」と共に前面禁止の指令が出され、剣道は昭和 27 年(1952)までの長きにわたって禁止の状態にありました。この時期が私の小・中学生の時代に当たります。小学校入学前の一時期に父(金作)から子供用の木刀を用いての基本動作、即ち、姿勢、構え、特に足の捌き方、振り方などの手ほどきを受けました。竹刀を持ったことはなく、実際に打ち込むこと、道具を着けた稽古の経験はありません。素面、素小手での、所謂「空間打突(素振り)」が中心です。「切り返し」も空間打突です。しかし、後日、初心の段階での木刀を用いての基本動作の学習が、多少時間を要しても、「理に適った剣道」の習得に効果的であること、また、空間打突の稽古法が全ての技の導入のために重要な役割を果たすものであることを確信しました。後年、全剣連が制定した「木刀による剣道基本技稽古法」の原案は、幼い頃に受けた木刀を用いての手ほどきの経験を基に、稽古法の一案として「(仮称)剣道基本形」制定部会で討議の末に提出したものでした。

旧制中学校の剣道教師であった父達が、歴代の生徒達の汗と涙と思いの浸み込んだ剣道具に重油をかけて涙ながらに焼却処分したことや、剣道の再生、復活を願って涙ぐましい努力をされていたことなどは、後年になって知ることです。

撓競技(しない競技)のこと

剣道禁止時代に「剣道は日本が消滅しない限り日本人に残しておくべき運動文化である」との情熱に燃えた学連 OB を中心とした剣道愛好者達が昭和 25 年(1950)に「剣道形式を取入れたが剣道ではない」興味、安全、経済を考慮した大衆スポーツであることを建前とした「撓競技」を創出し、昭和 27 年(1952)に学校教育に格技教材として採用されました。撓競技の指導法実験の被験者として父達から少々の手ほどきを受けた経験がありました。後世、撓競技の功罪について賛否の論議がありますが、剣道の復活・再出発への重要な「橋渡しの役割」を果たした実績は明治の「撃剣興行」と同様に歴史的に高く評価されるべきものと思います。

教育剣道の継承を目指して

剣道を特技とする体育教師になることを志して昭和 32 年(1957)4 月に東京教育大学体育学部体育学科に入学、剣道部に所属して本格的な修行に取り組むことになりました。当時の指導陣であられた中野八十二、橋本明雄、清野武治先生をはじめ訪れる佐藤卯吉、森田文十郎、小沢 丘、横田正行、本間七郎、鈴木幾雄、村上貞次、渡辺敏雄、湯野正憲先生などの諸先生先輩方からは「君たちは将来、剣道の指導者、特に高野佐三郎先生の意を体した『教育剣道』の担い手にならなければいけない。それが教育の本山ともいべき本学で学ぶ者の責務である」とか「こせこせとした勝負本位の小さな剣道をしてどうするか！ 高野先生の『理合いの剣道・正しい剣道』を修行せよ！」「理に適った剣道は強い」「理に適った剣道は美しい」とことある毎に諭されま

した。「教育とは、成長しつつある者の人格に有益な影響を与え、教育される者の人格の改良、完成、或は価値的上昇を達成すべきものである」との表現があります。大学入学後に履修した必修の「教育原理」の授業の冒頭で、当時の教育基本法の第一条「教育は人格の完成をめざし、平和的な国家及び社会の形成者として真理と正義を愛し、個人の価値をたつとび、勤労と責任とを重んじ、自主的精神に充ちた、心身ともに健全な国民の育成を期して行われなければならない」を暗記するように言われました。大学一年生のこととて何の事か深く理解もせずに覚えたことが私のこれまでの教師生活のバックボーンになっていることは確かです。全剣連の「剣道の理念」もこれに通ずることです。新構想の下に開学した筑波大学における剣道教育は「教育目的に資する剣道」、「人間教育としての剣道」を目指す指導者として「教育剣道」の伝統を受け継ぐべく努力が続けられています。私は微力ながら伝統を受け継ぎ受け渡す「仲立ち」の役割を務めてきた積りです。国の内外を問わず剣道の健全な普及、発展のためには優れた指導者の存在が不可欠の条件です。これからも可能な限り指導者の養成を中心に剣道の発展のための自己研鑽に励みたく思います。



第 51 回全日本医師剣道大会 茨城大会 つくばにて(平成 28 年 4 月)
佐藤成明範士と香田郡秀範士と高等師範五行の形 演武

剣道界における医師の役割

野見山すすむ



皆様こんにちは。今回林事務局長より投稿を依頼されました。テーマは、「剣道界における医師の役割」、です。もともと文才はない私ですのでお断りしようかと思いましたが、感じることもありお引き受けさせていただくこととしました。

結論から申しますと医師として剣道(界)と向き合うことは自然科学をまなぶ一員として向き合うことだと思います。医師としての役割、科学的に事実に基づいて考察する役割などがあります。そのように考えて剣道と接すると驚くほど剣道の教えは合理的で、理に

にあった、科学的にも証明できるような内容に満ち満ちています。剣道における先人の知恵、教えは実体験に基づく、つまり自分の体を使った実験(言いすぎでしょうか)の結果、証明されてきたことばかりです。背が高くとも、背が低くとも、体重が多くとも少なくとも剣理の示すところに従えばその違いはなくなると思います。剣道が常に無差別級である理由です。

私が剣道を始めたのは高校 2 年の秋(11 月?)、昭和 36 年だったと思います。昔から東映時代劇の影響で剣道(チャンバラとの区別がついていない)をやりたかったのですが、小学校は 60%ぐらいしか登校していないほど虚弱児だったので親が許してくれず、たまたま自宅近くの警察道場で青少年剣道指導が始まるのをきっかけに飛び込むことになります。以来、六段をいただくまでは至って順調でしたが、これはご指導いただいた先生がたがすばらしいかたばかりだったおかげです。ご指導いただいているときはあまり感じなかったのですが今にして思えばなんともお恥ずかしい次第です。現在指導いただいている神奈川県剣道連盟小林英雄会長も人柄はもちろんですが、剣道に対する努力工夫、洞察力、なにより剣道そのものの理解(怒られますね)が抜群です。指導力は神奈川県の八段合格率、女性七段合格率を見ていただければ一目瞭然です。

医師として剣道にきちんと向き合うようになったのは麻酔科を選択して 7~8 年目の頃だと思います。麻酔科臨床において剣道を修行(とてもその域ではないのですが)し

てきたことがどれほど役に立ったかわかりません。言葉でいえば不動心と不動智がその典型だと思います。また神奈川にいて関東医師剣道連盟に参加していたことから伊藤元明先生に全剣連医科学委員会に入れていただき、ここで前全剣連副会長松永先生のご意向もあり 2004 年より強化合宿の帯同医師として活動するようになります。ここでも多くの範士の先生方よりお話を聞く機会を得て、剣道の理についてお話をいただく機会を得ることになります。

文頭に述べました剣道の教えがいかに正しいか、単なる根性論や言い伝えとは別世界のものであるかについて少し述べたいと思います。

まず姿勢です。剣道の自然体とは人が自然にとる楽な姿勢ではありません。剣道を実施するにあたって、竹刀を使って打突、防御という動作を実施するにおいて最も適した姿勢です。なぜならこの自然体で構えた竹刀は最も軽く(感じるように)なり、打突動作において最も無駄なく、無理なく動けます。どのスポーツでも完成した姿は美しさを備えています。その美しさを備えた力強い打突の姿を実現する最も適した準備の姿が剣道での自然体です。もう一つこの姿は体を痛める可能性が最も少ない形でもあります。まさに無理なく、無駄なく、無法無しの具現形です。

もう一つ非常に素晴らしい教えというべきか知恵というべきか、丹田に力を籠める、という教えがあります。これも自然体をつくる重要な要素でもあります、それ以上のものを包含しているように思えます。では丹田とは人体のどこでしょうか。丹田に力を籠めるとはどこに力を籠めるのでしょうか。丹田とは概念上のものであり、物理的部位を示すものではないという方もいらっしゃると思いますが、これは少し違うのかなと感じています。多くの方は下腹部、つまり腹筋と理解されている節があります。正しいのかもしれませんが、下腹部に力を籠めると肩にも力が入りやすく、力みにつながりかねないように思います。神奈川県故亀井範士が図示して教えられた部位は腹筋よりもさらに内側です。少し調べたところやはり丹田とは腹筋そのものの位置ではありません。いま実験(調査)中ですがやはり人体を動かす最も重要な部分にあたり、強い打突を発生させるために不可欠の場所であるように思います。

このように剣道の教えを科学的に検証してみるとその合理性に驚きます。まさに理に合ってはじめて打突が美しくなり、完成します。

一方、剣道を取りまく、新しい医学的な知見の方にはまだまだ科学的に正しいか検討しながらならないものが多くあるように思います。例えば熱中症です。この本質は熱(体温上昇)と脱水による意識障害の進行から多臓器障害にいたるものであり、その段階が3段階に区切られ、その時期に応じた適切な治療により悪化を防ぐことができると考えられます。脱水にいたる原因のひとつは発汗であることから水分と塩分の摂取が予防の段階から重要といわれています。しかし、得られているデータからは低ナトリウム血症を示唆するものは非常に少なく、発汗中のNaも発汗量の増大にともない減少するというデータもあるそうです(小生未確認)。4日間、1日の塩分摂取量を 4g

程度におさえ、水分は 3600ml 摂取とし、高温の中で 1 日 4 時間の運動を実施したあと、血中 Na 濃度は 140mEq/l を超えていたという実験結果（被験者健康成人 1 名）もあります。救急医学会の発表にはⅢ度で集中治療を受けた患者の入院時血中 Na 濃度は高い、正常域、低いがほぼ同数というデータがあります。Ⅲ度の搬送患者の大部分は老人でスポーツ中にこのような状態になることはまれなのですが。日本人の 1 日塩分摂取量は WHO 推奨量の 2 倍を超し、外食メニュー中のほとんどは 1 食あたり塩分は 4g をこえます。従って熱中予防には水分摂取、熱中症Ⅰ度でもミネラルウォーターか薄めたスポーツドリンクのほうが人体にとって、特に成人にとっては安全と考えられます。特錬の様な稽古をしていても 3 回の食事をとっているかぎり低 Na 血症となることは考えられません。また熱痙攣が熱中症の低 Na 血症によるとの考えもありますが、急性低 Na 血症による痙攣は脳浮腫による全身痙攣です。熱痙攣の原因は別にあるような気がします。熱痙攣の多くはその筋のストレッチにより改善することがヒントとなるように思います。

熱中症の治療のうち多くは正しいのですがどの時期にどの治療を行い、何に注目（観察）していくべきかなどはまだ整理できていないように思います。熱中症シーズンに色んなタレントがマスコミの中で「水と糖と塩をとらなきゃいけない」と声高に叫ぶ中で、救急医学会の代表は「なによりも水分です。水の摂取です」といわれているのが今年の報道の印象です。残念ながら多くの汗をかいた人、熱中症Ⅰ度の人の血中 Na 濃度を多数調べたデータはありません。私が書いてきたことも推論ということになります。

医師として剣道にどう接するか、科学的に検証するという態度で臨むことに尽きると思います。そうするとますます剣道のすばらしさにきづかれます。岡山の故石原範士は剣道の修行過程と打突について次のようなお言葉を残されています。「触る、叩く、打つ（全日本出場者や七段クラス）、斬る（範士のクラス）、抑える、忘れると進む。いまだかつて抑えるという段階に達した人を知らない」。知人の当時警視庁特錬のバリバリの現役だった先生が故持田範士に 3 回稽古をお願いしたとき一度も打って出ることができず、いつの間にか羽目板に背中がぶつかることを繰り返したと話されていました。抑える域だったのでしょうか。剣は剣の理法の修練による人間形成の道である、石原先生のお言葉と考えあわせると、範士の先生方もまだまだ道半ばの人間臭い人間なんだと思え、なんだか妙に納得できるような、嬉しいような、気が遠くなるような気がします。なによりも剣道を生涯（残り少なくなりましたが）の道として選んだことが素晴らしいことだったと悦に入っています。

先生方とまた稽古できる日を楽しみにしています。

第 53 回 全日本医師剣道大会を開催してみて

大会会長 菅 義行



平成 30 年 4 月 14 日(土)、15 日(日)の 2 日間に渡り、第 53 回全日本医師剣道大会に全国から剣道を愛好する医師、歯科医師とご家族の皆様が岩手県北上市ご参集いただき交剣知愛の大会を成功裏に終えることができました。

「いざ いわて北上大会」と銘打ってアピールした想いに答えて頂き、岩手路まで一生に一度かもしれないと参加された方々もおられました。前日稽古会は 20 名以上(村上もとか氏の漫画「六三四の剣」中の道場;修錬館)、大会参加者は 110 名、特に女性剣士 5 名と予想を越えるご参加に実行

委員会一同感謝を申し上げます。

さて、全日本医師剣道大会を開催し、大会会長として感じたことを今後の大会企画や運営に役立って頂きたいと想いを徒然なるままに綴ってみました。

1. 岩手大会の開催を受諾する前、①実行委員会と支援体制、②会場確保 ③日程調整・ホテル確保に重点をおきました。

- ① 実行委員会は、5 回出場の川上格先生に実行委員長、仙台大会出場の茂木隆先生に事務局長、地元剣道協会員で歯科医師の安達孝二先生と私(会長)、高知大会を視察した当院医療事務の照井久美子さん、家内でスタート。その後、伝統ある東北歯科親善大会の実行委員である岡田治郎先生、石黒姿子先生も参加して頂き計 8 名(プログラム最終頁)。

支援体制は、北上市剣道協会(副会長)、岩手県剣道連盟(理事)、岩手医大剣道部OB会(副会長)へ後援依頼、及び大会協力業者として、旅行会社、ホテル責任者、北上市、市体協、市コンベンション協会が積極的なバックアップ頂きました。

- ② 会場確保は、盛岡市の県営武道館(前回大会)は 県剣道連盟を通して 3 年前の仮予約が保証されませんでした。そこで、会場を私の地元である北上市にした理由 i) 北上市は「スポーツ宣言都市」であり 北上市後援によって全国大会レベルは 3 年前から総合体育館の仮予約が可能であることを市体育協会理事として確認済みであった。大会場変更の心配事として、国政選挙の開票場であったが、万が一国政選挙の場合、全国大会を優先すると北上市・市体協からお墨付

きがもらえた。ii)北上では4月上旬は寒く、雪が舞う日もあり 暖房施設ある施設は国体会場の北上総合体育館のみであり、今大会中に暖房が必要であった。

iii)市剣道協会会員が運営スタッフとして協力を確約。

- ③日程調整は、毎年の大会日程を私の都合(県医師会理事会)のため、1週間ずらしたことで参加できなかった先生方がおられ大変申し訳なく思っております。ホテル確保は展勝地の桜祭り期間が年々は早まってきており、3年前から旅行会社を通してホテルが確保できていた。ただし、北上市は100名以上宿泊するホテルがなく、メインホテルに宿泊できない先生方・審判員を地元ホテル業界へ委託。全国チェーンホテルはインターネット予約を優先されて、事前予約で埋まることを好まないとの情報があった。

2. 岩手大会の開催決定後、実行委員会は大会1年前から当院リハビリ室にてほぼ毎月、最終回は1週間前で計14回開催した。

- ① 実行委員会:川上実行委員長が年間スケジュールを作り、毎回の協議内容、決定事項確認の資料作成。交通は自家用車(高速道)か、新幹線にて遠い先生は1時間以上、委員会の終了は午後10時過ぎのこともあり、それから川上先生と日本剣道形の稽古、特に冬季の豪雪時期はご苦労をお掛けした。
- ② 本大会用メールアドレスを作成して大会参加会員との情報交換をした。実行委員同士のメールは各自のメールで全員へ発信・返信形式で意見交換をした。
- ③ 大会経費は、全日本医師剣道連盟60万円が基礎運営費として大いに役立った。広告掲載は県内すべての製薬・医療機器等へ協力依頼して結果32社、大会協賛金は岩手医大剣道部OB・個人会員各位から多大なご援助、2医師会・1歯科医師会の支援、及び北上市から全国大会補助金10万円(全国大会100人以上宿泊要件)で対応できました。

大会経費減のために、①DVD作成中止、②八段の先生方(8名)は原則県内、県外は京都大会でラブコールし続けた門野ご夫妻、審判員(24名)は2日目のみの方もあり、審判経費を極力抑えた。②会場費:市剣道協会と共催にしたことで当初の7割減、③懇親会は飲み放題で持ち込み可、酒コーナーは「南部美人」の社長(後輩)の提案でホテル予算案より半減、④集合・団体チーム写真、大会誌、記念品、手ぬぐいで担当者が値引き交渉と実行委員の方々のご努力があった。

3. 大会中

- ① 大会当日の午前、会場準備は北上市・遠野市剣道協会、岩手医科大剣道部員、大会前に実行委員会で物の移動(机・椅子)のシミュレーションを何度も

確認した。できる限り椅子を多く配置して座って見学をして頂くことに心がけた。参加者への袋詰めは川上医院・当院の従業員、MR・問屋スタッフで行った。

- ② 大会のスタートを盛り上げてもらうため、会場に隣接する県立翔南高校 鬼剣舞部へ依頼しが快く受諾。全国高等学校総合文化祭で文部科学大臣賞・文化庁長官賞を受賞されており、今後も全国大会で活躍する肝を鍛える育成と活動資金(衣装クリーニング代程度とお茶)も考慮した。
- ③ 弓道演武について、恩師 菅崎吉雄県連会長から剣道七段祝いに「道はこれからです」と弓道家の「霊前～阿波研三物語」(日本武道館 馬見塚 明久著)を頂く。その中の「未発先中」(仏教の入我我入、すなわち 即身成仏への道)の教えと出会ったことで、北上市武道演武祭りで感動している市弓道協会の演武「一つの謝礼」の所作を堪能していただきました。
- ④ 日本剣道形の稽古について、大会前に剣道六段に見事昇段された川上先生が打太刀、菅が仕太刀で日本剣道形を稽古し披露できたことは本当に良い経験でした。大会主催者として、日本剣道形を披露するための稽古は各自の剣道協会会長から指導を受け、その後、県剣道連盟の菅崎会長からの指導を仰いだ。二人とも羽織袴をそろえ、皆様から「剣道形は良かったよ」と一言に達成感を感じた。
- ⑤ 大会運営について、東日本大震災後、「三陸沿岸・北上少年剣道交流錬成大会」(この大会で配布した手拭いを全国販売した支援金で開催)、「六三四の剣杯少年少女剣道大会(参加者 1000 名・観衆 1000 名程)」の企画・運営してきた市剣道協会員と当実行委員、従業員等の方々に大会運営を全面的お願いできた。大会中の欠員・変更もスムーズに対応して下さり、閉会式を時間通り終えることができた。市剣道協会員は剣道六段・七段へ昇段、称号授与を 20 年間連続しており、京都大会へも 15 年間参加して高め合い信頼し合える剣友である。
- ⑥ 審査形式対戦は、昇段を目指されている方々を考慮した組み合わせを企画した。大会後の京都八段審査一次審査に合格された宮坂信之先生、宮坂昌之先生、三條貞夫先生は同じ立会いグループであった。他にも意識して見ごたえのある組み合わせを心がけたつもりであった。
- ⑦ 稽古会は、高知大会に引き続き、参加者の廻り稽古:6 回、10 回コース。その後、剣道八段、高段者と岩手国体選手との稽古会と堪能していただきましたでしょうか。

⑧ 団体戦は 地区ごとの交剣知愛と年齢バランスを考慮したチーム編成としました。この機会に隣県の先生方との交剣知愛を目指したいと切なる思いがありました。東北は 最近参加されていない青森、秋田、山形の先生方の参加があり嬉しかったです。

⑨ 個人戦は 2 回対戦する形式として 1 回目は同年代の切磋琢磨、2 回目は年齢が離れた方々と対戦できるのが剣道であるという企画を試みましたがいかがであったでしょうか。個人戦の最終試合を次代につなげる対戦企画として、前会長 鏡山博行先生(82 歳)と現会長 大柁廣信先生(70 歳)の感動する立会いで岩手大会を締めくることができました。

4. 懇親会:

- ① 懇親会場では岩手の祭りを代表する「ミスさんさによるさんさ踊り」を企画した。
- ② 交剣知愛の第二道場でもあり自由席とした。企画として岩手県剣道連盟役員と全日本医師剣道連盟役員並びに全日本剣道連盟の医科学委員・ドーピング委員各位とが意見交換をできる場を設定した。そのお蔭で来年度から「剣道医学・安全委員会(仮称)」の設置が決定して、医師、歯科医師、看護師、薬剤師、県連役員等で構成予定となっている。この場をお借りして皆様に感謝を申し上げます。

5. 文化講演会「新渡戸稲造の『武士道』」

岩手ゆかりの偉人である「新渡戸稲造」を紹介し、我々会員が目指している「医剣一如」につながる貴重な講演でした。

6. 大会中に皆様からのご意見

- ①田舎の大会だから広い会場を 2 日間確保、都会は事前予約が大変、②都会は会場とホテルの立地の課題が多い。③剣道大会と稽古会のみでもいいのでは ④鬼剣舞・さんさ踊り、特別講演の企画等は経費が大きい。⑤ホテルは各自が予約方式もいいのではないかと ⑥八段の先生方との稽古より参加者同士の稽古時間を多くなどがありました。

最後に大会中、至らぬ点が多々あったと存じますが、皆のお蔭で無事、いざいわて北上大会を終えることができ有難うございます。

では、東京大会でお会いしましょう。

第 53 回全日本医師剣道大会を終えて

いわて大会実行委員長 川上 格



先ず以って平成 30 年 4 月 14 日(土)、15 日(日)の 2 日間に渡り行われました第 53 回全日本医師剣道大会に 110 名と多くの先生方にご参加いただきましたこと誠に感謝申し上げます。

私自身、剣道大会の参加はあっても大会運営自体は全く初めてでありました。大会会長の菅義行先生をはじめ、実行委員のメンバー、並びに医師剣道連盟事務局長の林明人先生、高知大会実行委員長の枝重恭一先生には多大なるご指導を賜りました。大会を無事終えることができ安堵しております。

この場をお借りして御礼を申し上げます。

平成 28 年 12 月(大会の 1 年 4 ヶ月前)に菅先生より大会実行委員長を仰せ付けられ、大会に向けた実行委員会が立ち上がりました。私の役割は①大会プログラムを作ること、②実行委員のメンバーのアイデア、意見をまとめること、この二つが重要と考え取り組みました。まずは年間スケジュールを作り、月 1～2 回実行委員会を開催し、協議内容を確認しながら進めて参りました。実行委員のメンバーは岩手県の各地域に散らばっており、面積の広い本県では皆で集まること自体が大変(特に冬場の豪雪時など)でしたが、お忙しい中ご協力を頂きました。その中でメーリングリストを利用した意見交換も行いましたが、進捗状況の確認に非常に有用であったと思います。メンバー一人一人がアイデアを出し合い、大会当日は「鬼剣舞」や「新渡戸稲造文化講演会」など様々な企画を取り入れ実現できたことに満足しております。いわて大会は沢山のアイデア、企画が詰まった大会であったと思いますが、幹事会でのご意見でもありました様に、剣道の原点に戻り稽古、試合を中心とした剣道大会として簡素化するなど様々な大会の形があって然るべきと思っております。

「審査形式立会い」「地区別団体戦」「個人戦」ではできるだけ個人々々が有意義な対戦になっていただける様な組み合わせを考えました。特に「地区別団体戦」では県を超えた広域でチーム編成を行い、交流を深めていただける様配慮しました。「個人戦」では年齢差を大きくし若手と熟練者の組み合わせを多く取り入れました。各コートで年齢差、段位を超越した真剣勝負が見られ、見応えのある試合が多かったと思っております。大会の締めくくりをお引き受けいただいた鏡山博行先生と大柰廣伸先生

には素晴らしい立会いをご披露いただき大変感動いたしました。本当に感謝申し上げます。

今回の大会では特に若い先生方に働きかけ、東北地方を中心に比較的多くの先生方に参加していただきました(秋田からは20歳台の先生が2名参加されました)。現実的には若い先生方の参加はなかなか難しいと思いますが、とにかくまずは1回参加していただくこと、それにより医師剣道大会の素晴らしさを実感し継続参加に繋がっていくのではないかと考えております(私自身が初めての伊勢大会で非常に感銘を受け、以降大会参加しております)。今後の医師剣道大会発展のため、若い先生方に積極的に参加していただくような大会運営、医師剣道連盟の方策に期待致します。

私自身振り返ってみますと2日間に渡る大会はまるで夢の中にいるような心境でございました。大会を終え約1ヶ月は放心状態が続きましたが、時間が経つにつれ本当にいい経験をさせて頂いたという実感が湧いてきました。日々の診療、医師会等の仕事にも積極的に取り組める様になってきました。まさに剣道と医道は両輪をなすものだということを実感しております。また大会を通じ多くの先生方、大会関係者の方と関わらせていただき、多くの繋がりを持つことが出来ました。菅先生と1年間通して行った日本剣道形の稽古は何事にも代え難い貴重な経験でありました。

日々の診療、研究をしながら大会運営を行うというのは並々ならぬ苦労があり、この大会は先生方の思いや苦労の末に受け継がれているということを改めて感じた次第です。

大会中至らぬ点、不手際等あったと思いますがご容赦いただければ幸いです。最後に皆様方にもう一度感謝を申し上げ、今後の大会でも「交剣知愛」の程宜しくお願い致します。



大会結果

【地区別団体戦】

優勝：東北 C(菅 剛史、岡田治郎、田邊忠輝、高橋 衛)

準優勝：東北 B(三田基樹、菅 重典、宇佐美伸、田中昭彦、三條貞夫)

3位：関東 D、九州・沖縄 B



【個人優秀選手賞】

池澤清豪(北海道)、宮坂信之(東京)、長野拓三(鳥取)、伊神 勲(青森)、
福島孝幸(千葉)、門野由紀子(東京)、林 明人(茨城)、石山雄一(神奈川)、
宮下 薫(神奈川)、松下正矢(静岡)、菅 徹也(岩手)、日高康博(東京)

「特別賞」

【生涯剣道賞】

鏡山博行(兵庫)、稲村征夫(東京)

【大志剣道賞】

東本 郁(秋田)、青山 有(秋田)

香港、マカオそして有縁ということ

篠原義智



●ライバル剣友；

昭和大学の清水浩二君（当時同大外科助教授）は私の剣道のライバルであり恩人である。

彼とは大の仲好しではあるが、同学年であるため全日本医師剣道（全日医剣）大会では毎回立会わされて仇敵と化す。

彼は私の剣道における恩人である。

というのも、彼が私を関東医師剣道連盟（関東医剣）と築地警察署の稽古会（築地木曜会）に入会させてくれたからである。これらに所属させてもらったことから私の剣道人生を限りなく豊かにしてくれた大勢の人々と出会うこととなる。

●築地木曜会そしてマカオ剣道との出会い

「築地木曜会」の師範は小笠原宗作先生（範士八段）である。

小笠原先生は私の亡き伯父（東レ三島師範）を良く知っていたこともあり目をかけて頂いた。先生の稽古は、決して縁を切らず、振り返るところや気の途切れたところをポンポンと打って下さる。先生の柔らかい剣遣いと足捌きは伯父のそれと重なり、私はすぐにファンになった。

「築地木曜会」稽古後のある宴席に一人の若い外国人剣士がいた。マカオ剣道連盟の当時の会長ルイス・トラブコである。剣道の腕前は3段位であったが、落ち着いていて威厳さえ感じた。彼の剣道に対する真摯さと年に3－4回も修行の為に来日するという熱意に同席の剣友は揃って感激した。

その彼が創始したというマカオの剣道を見に行こうと話は一トントン拍子に決まり、1999年5月1日から5日間、剣友3人とマカオを訪問した。

マカオ剣道連盟は我々を盛大にかつ熱烈に歓迎してくれた。

マカオ剣道連盟は中国人、マカオ人、ポルトガル人で構成されており、当時のレベルは初心者から2段位であったと思う。

実際の指導は、私がまず英語で話し、ルイスがポルトガル語と広東語で皆に伝えて行われた。ところがこれで終わりではなく、聾啞の剣士が1人混じっており、そばにいる仲間が手話で内容を伝えていた。

このようにルイスの弟子たちは多種多様で、様々な言語を飛び交わせながら一体となって真剣に剣道を学ぶ様子は、我々にとりまさに感動的であった。

ルイスは威厳を持って彼らに剣道の魅力を伝え、剣道の基本を厳しく徹底させていたが、一旦稽古が終わると、彼らは皆人なつっこい若者にもどる。

私も本物の家族のような彼らの仲間に入り、はしゃぎながら「ああ、剣道をやっていて本当に良かった」と、幸福感を味わっていた(写真1)。



こうして私はこの後も約5年間にわたり年に数回マカオに渡りマカオ剣道レベルの底上げにルイスに協力した。ルイスも私を窓口にしてこれまで以上に頻回に来日し熱心に修行にはげんだ。このようにして私とルイスは一生の友となった。現在ルイス一家はマカオを離れて英国オックスフォードに移住しているが、毎週日曜日には現地で稽古を続けている。

●香港剣道協会との出会い

1999年の第1回マカオ訪問の帰途、我々は初めて香港剣道協会の稽古会に参加した。香港剣道協会の創立は1994年であるが、香港では1972年からすでに道場剣道の活動がスタートしており長い歴史を有する。

総勢でも20人ほどのマカオ剣道連盟とは異なり、黄宝傑(現在7段)会長のもと大きな体育館で60名ほどが稽古に励む光景は壮観であった。

堀部優浩先生(7段)、山田好男先生(7段)、笹原正次先生(7段)など現地在住の日本人が指導陣の重要な一角をなしていたが、一方で商社などの香港転勤族で腕の立つ日本人剣士が加わり互いに切磋琢磨していた。その中には何人もの忘れられない名剣士がいた。同業者では黎卓先(Dr. Edward C.S. Lai :現在7段)先生がいる。彼は香港では相当有名な医者らしい。

ある日「東京に来たので会いたい」というので私は宿泊中の京王プラザホテルに出向き深夜まで楽しくお喋りした。私が「何の学会で来たの?」と聞いた時「東京大学の幕内教授に頼まれて学生の講義に来た」と平然と答えた時には少なからず驚いた。



現在ではブラジル出身で香港在住のロベルト岸川先生が2013年に8段審査に合格してからは、彼が名実共に指導陣のトップとなった(写真2)。

このように剣道環境に恵まれた香港では現在、香港出身の7段剣士が5名、6段剣士

も4名を輩出しており、アジア剣道界ではリーダー的存在として、2001年より毎年アジアオープン香港剣道大会(Hong Kong Asian Open Kendo Championship)を主催しており、最近の参加者は延べ700人にまで膨れ上がっているという。

●容貫超との出会い

私は当初はマカオに重点を置いて訪問していたが、何年か経ってルイスがマカオ剣道連盟を離れたのを機に私のアジアでの剣道交流はもっぱら香港で行われるようになった。香港の仲間は北本で行われる外国人指導者講習会や自分の段審査などで来日する機会も多く、彼らと私の交流も頻回となり、そして深いものとなっていった。そんな彼らの中でも一番光っていたのが容貫超(当時5段)であった。



彼は英国やオランダでも仕事をしていた国際的なビジネスマンである。

英国にいた5年間には英国ナショナルチームのコーチを委託され、香港に戻ってからは世界剣道選手権で香港チームの大將をつとめるなどの経歴がある。

彼は誰よりも「日本的」であり、私の知るアマチュア剣道家の誰よりも剣道に対する情熱は強い。私は自然と彼の応援に力を入れるようになり、一緒に切磋琢磨して

いこうと話した。私が彼を小笠原宗作先生に引き合わせたのだが、じきに彼は小笠原先生を特に精神面で崇拝するようになった。(写真3)

彼は剣道6段に2回目の受審(名古屋)で合格した。

その帰りの新幹線の車中で「7段は一発で合格しろ、私もしっかり応援する。これは我々のミッションだ!」と気炎を上げた。

いよいよ彼の7段受審の時、10日前から来日させ2人で福島と新潟を1週間武者修行し最終調整をしてから2人で京都に向かった。

彼は立派な立ち合いで7段一発合格の快挙(ミッション)を果たしてくれた。

自分の番号を確認した彼が向こうから涙を浮かべて歩いて来て私に抱きついた時のことは忘れられない。このようにして私に「弟」が出来た。

「弟」ばかりでなく、詳細ははしるが、香港ではアグネス李(5段)とジョアンナ陳(5段)という「妹」も出来た。(写真4)



●「関東医剣」の大先輩たち

私が清水先生の紹介で関東医剣の稽古に初めて参加した日のことを今でも良く覚えている。私は当時6段を取得したばかりであったが、どの先輩に掛かっても齒がたたなかった。当時の会長は故山崎衛先生(教士7段)であった。

江東区の赤髭先生と呼ばれていて「温かさの塊」のような先生で会員全員から愛されていた。

当時の「関東医剣」の稽古後には、毎回近くの中華料理店で宴会が設けられたが、山崎先生は毎回美味しいアンパンをととても大きなブリキの缶一杯に持って来て皆に配って下さった。故大柰一郎先生(範士8段)や伊藤元明先生(元東京都剣道連盟会長、元全日医剣会長)などお名前を挙げきれないほどの大先輩が必ず参加された。そうそうたる大先生方はいつも店の右奥の丸テーブルを取り囲んで座った。会話するその様子はとても重々しく、私などは居住まいを正して聞き入っていた。

私は「関東医剣」の先輩方に恩返しをするため、仲間に喜んでもらうため、「関東医剣」の香港剣道ツアーを計画し、2006年7月に多くの香港の剣友の協力のもとに盛大に実施された。(写真5)



何よりも山崎衛先生が喜んでくださったのが一番うれしかった。(写真6)

香港剣道ツアーを成功裏に終えたある日、山崎衛先生から「美味しい寿司でも食べに出てきなさい」とのお電話を頂戴した。

下町の老舗寿司屋では先生の娘先生(日本医大OB)とツアーに同行した甥の小林さんも加わり私を迎えて下さった。その席で山崎衛先生は「香港ツアーでは篠原君の配慮が実に行き届いており見事であった、本当に楽しかった。有難う!」と仰って下さった。

尊敬する大先輩に喜んで頂けた、誉めて頂けたとまるで天にも昇る思いであった。

2011年10月に山崎衛先生が亡くなってしばらくしたある日、娘先生宅を訪ねて山崎衛先生を偲び2



時間余りお話をさせて頂いた。

娘から見た父親としての山崎衛先生の逸話も色々と伺ったが、「父は何事にも一生懸命の人でした」との言葉が印象的であった。

失礼する際には山崎衛先生が愛用していた防具と竹刀などを形見として下さった。

それらのうち胴と小手は後日「恩人」である清水浩二君に形見分けをした。

●有縁ということ

「有縁」(中国人は「ヨウユエン」と発音する)という言葉がある。

「有縁」という言葉を中国人は感情を込めてよく使う。

文字どおり「縁」が「有る」という意味であるが、人と人が出会い、感謝、尊敬、慈愛、互いの信頼などで「互いの心がつながった状態」をイメージする言葉である。

中国人の推定人口は13億人(世界総人口は75億人)もいるので、誰かと誰かが出会った、ということを我々日本人と比べて、より「運命的」なものとしてとらえるのだと思う。

しかし、考えてみると私も医師となり、たまたま剣道を愛好し、継続し、関東医剣と全日医剣に所属したおかげで多くの尊敬する先輩方と出会えた。

思い立ってルイスを訪問したことから、国を越えて国籍が違う沢山の友人とめぐり会えた。

このような御縁を頂いて私の剣道人生壮年期が豊かで誇らしいものとなったのであるから、中国人でなくとも「有縁！有縁！」と呟きながら、この「特別な縁」に感謝しないわけにはいかないのである。

気づくと、私の剣道人生もすでに老年期に入った。

これからは剣道をもっと広くとらえて、大柰廣伸先生(現全日医剣会長)が本会報で会長就任時の挨拶で述べたように、「人や物を生かして」周りの人に「何か愛のようなもの」「素晴らしい縁を伝え大切にしてく」ことを意識した人生を実践していこうと思っている。

以上。

第三種郵便物認可 月刊 剣窓 平成30年7月1日

剣窓



全日本医師剣道連盟会長

大 祢 廣 伸

医 剣 一 如

私は戦後生まれのいわゆる団塊の世代です。GHQの剣道禁止令解除間もない小学1年より剣道を習いました。剣道の師は父である大祢一郎で、土浦市より幅3間奥行き5間ほどの小さな旧憲兵隊道場を借り受け、私を含め子供達を指導しました。父は大阪大学卒業後旗鑑長門に配属され、山本五十六司令官付軍医を経て霞ヶ浦海軍病院で終戦を迎えました。その後軍医の職を解かれ土浦市内で大祢外科医院を開業しました。父の子供達に対する剣道指導は毎日道場に通わせ、道場内の雑巾掛けから始まり稽古と試合をさせるものでした。午前6時から稽古終了後、子供達に朱熹の偶成。少年老い易く学成り難し。一寸の光陰軽んずべからず。の詩吟を詠わせました。小学生の自分達は幼い子供が忽ち老人になる内容に驚きましたが、70歳になった今

その尊い教えは鋭く心に刺さります。父の影響で医学部に進学しました。昨年設立85周年を迎えた昭和大学剣道部は、OB師範に大田区剣道連盟・西本昭夫元会長がおられました。現在、栗田和子郎並びに権屋光男両先生に師範を賜っております。医学部剣道部員の第1目標は、「東日本医科学生体育大会」に優勝する事でした。丁度私が1年時の北海道大学主管理帳大会決勝で、昭和大学が東北大学を破り3連覇を成し遂げた事は衝撃的な思い出です。加盟40大学からなる「関東医歯薬獣医科大学剣道大会」(荻原幸彦会長)は、東日本医科学生体育大会に匹敵する大きな大会で、鎮を削った多くの剣友と出会いました。

大学卒業後10年間は病院研修のため剣道とは疎遠になりましたが、父が会長を務めていた「関東医師剣道連盟」(稲村征夫会長)に所属し月1回のペースで、小田急豪徳寺にあった蹟寿堂や東京医科大学新宿キャンパス剣道場での稽古会に参加しました。又、父が設立当初より所属し会長の任にあった「国際社会人剣道クラブ関東地区クラブ」(川瀬龍男会長)にも所属し、父の送り迎えも兼ねて稽古を戴きました。この様に私の剣道は父と一緒に多くの時間を過ごしました。父は98歳で他界しましたが、全日本剣道連盟より第1回剣道功労賞を頂戴しました事は、息子として大きな誇りでございます。

父も連盟会長を拝命した「全日本医師剣道連盟」について述べます。現在会員は老若男女協名を数え25歳より92歳まで、段位は三段より範士八段まで大きな幅があります。当連盟は4年に1度開催される日本医学大会総会時に行われる医師主体の剣道大会が根幹となり、伊藤京逸先生を筆頭に剣道を愛好する医師により設立されました。昭和34年の第1回東京大会には、全剣連・木村篤太郎会長ご臨席の記録があります。毎年全日本剣道連盟の記録があります。今年には15名の参加者を迎える岩手県北上市(菅義行大会長)で行われ、花巻出身の新渡戸稲造博士が記した「武士道」について、一般財団法人新渡戸基金・藤井茂理事長による文化講演会が催され、会員一同改めて新渡戸稲造博士の足跡を辿りました。来年は東京での開催とな

り設立60周年記念大会を予定しております。

当連盟は会員に多種診療科医師を有しており、平成13年に全剣連「医学・科学委員会」委員をされていた伊藤元明先生監修の元、当会員が主に執筆した「剣道医学Q&A」が出版されました。表紙に像とネズミが面を被って剣道をしている様子が描かれているA4サイズの冊子で、現在第3版が出ており広く活用されております。全剣連では生涯剣道を安全に行えるように「医・科学委員会」及び「アンチ・ドーピング委員会」が設置されており、それぞれ委員長に宮坂信之・宮坂昌之両先生を配し、朝日茂樹・秋山知子・越智小枝・佐々木健・野見山延・門野由紀子・濱井彩乃各先生など、当連盟会員が委員として生涯剣道の諸問題対策に取り組んでおります。

剣道を愛好する医師が会員として各都道府県に点在している特性を活かし、当連盟は大都市圏ばかりでは無く全ての県に「医・科学委員会」及び「アンチ・ドーピング委員会」を設置して戴く様、関係部署に働きかけるアナウンスを予定しております。当連盟設立当初より「医剣一如」の旗印を高く掲げ、剣道修行を通じて医学の道を極め広く社会貢献を成し遂げるべく、会員一同切磋琢磨している所です。

(剣道教士七段)

私の好きな言葉

月刊剣道時代(体育とスポーツ出版社)の巻頭のページに【私の好きな言葉】シリーズがあります。今回、全日本医師剣道連盟が創立 60 周年を迎えるにあたって、これまで掲載された会員 7 名の記事を掲載します。

1)2004 年 4 月 伊藤 元明

「初めにはためらいがちに、単純に、しかし常に一貫した方向に私の思想は進みふくらんできた。」

2)2010 年 6 月 宮坂 信之

「継続は力なり」

3)2010 年 11 月 鏡山 博行

「打たれたっていいじゃないですか」

4)2011 年 5 月 中山 尚夫

「工夫肝要なり」

5)2012 年 10 月 宮坂 昌之

「夢みて行い考えて祈る」

6)2014 年 5 月 十河 勝正

「あるがまま」

7)2017 年 10 月 林 明人

「仁と斌」 JIN と HIN

剣道時代にはご理解のもと転載許可をいただきました。

また、剣道時代の方には全日本医師剣道大会をたびたび取材していただいております。柳田直子様をはじめ剣道時代の関係の皆様に感謝の意を表します。

(文責 林 明人)

伊藤元明



いとう・もとあき／昭和11年11月3日、東京都世田谷区に生まれる。67歳。成城学園から東京医科大学外科学大学院卒業。同大胸部外科学教室の助手を経て、慶應義塾大学医学部放射線医学教室にて移植免疫学を研究。同教室の講師を経て、琉球大学助教授、東海大学助教授を歴任。現在、杏林大学客員教授。全日本剣道連盟審判員。東京都剣道連盟会長。全日本医師会連合会幹事。医学博士。

初めにはためらいがちに、単純に、しかし常に「貫した方向に私の思想は進みふくらんできた。」

〔レオニート・クロイツァー「ある音楽家の美学的告白」〕

二十世紀なか頃、ドイツ・ピアノ界の巨匠レオニート・クロイツァー（1884—1953）は、「ある音楽家の美学的告白」を上梓しました。そのなかの、「初めにはためらいがちに……」の一文と私の出会いは、平成元年のことでした。その頃、私は世田谷区剣道連盟の会長に就任したばかりで、剣道の専門家ではない私は、何をもって地域社会の剣道界に対応しようかと少し悩んでおりました。

このようなときに、クロイツァー豊子夫人よりいただいた亡き夫君の「告白の書」は、私にとって大きな糧となりました。

第二次大戦中、ナチス・ドイツによってベルリン音楽大学主任教授の座を追われ、さらにドイツ国籍を剥奪された彼は、日本において音楽の真髄を追求する演奏と教育活動を通じて名声を馳せました。クロイツァーの強固な思想は、この書に刻印されています。

クロイツァーは、音による作品の再現を再現芸術という言葉で表わしています。古来より作曲家によって創造された作品は、時の流

れのなかで、演奏家による音によって再現され、現代に至っています。

現代剣道に眼を向けると、その真髄となる理法は古流の伝承であり、現代的な展開によって再現されています。

教育剣道に情熱をもって挺身する指導者は、音楽教育の教材に見られるように、子どもの体験にふさわしい、喜びと感動を誘う指導目標を立て、その理解を助けて剣道への興味を起こせていただきたく思います。

剣道を愛する医師の立場で生涯剣道をお話しするとき、私は「剣道は、正中線上の攻防を通しての尋常の勝負であり、心・精神・霊性を求めていくなかで自らを生涯にわたり高め続けていく武道である。そして、人間とは死に向かって成長し、生を完結するものである」と、私の話を結びます。

ものごとの初めには気持ちをしずめ、中心を求めてはずさず、一貫して剣理を温め、人格の実現を目指して、固く意志を実行したいと思えます。

宮坂信之



みやさか・のぶゆき／昭和22年9月18日、長野県上田市に生まれる。62歳。上田高校から東京医科歯科大学医学部に進み、卒業後は母校の第一内科に入局。専門分野は内科学（リウマチ・膠原病）、臨床免疫学。剣道は中学時代から始め、上田高校時代は昭和40年佐賀インターハイに出場する。現在、東京医科歯科大学膠原病・リウマチ内科教授、同大学副学長。剣道錬士七段。

撮影＝笹井孝祐

継続は力なり

これは私の師匠である梯正治先生（元警視庁剣道指導室主席師範、剣道範士八段）が、くり返しおっしゃる言葉である。先生は、私が勤務している東京医科歯科大学の剣道部師範でもあり、学生に対しても稽古を続けることの重要性を説いておられる。最近、私はこの言葉の意味が痛いほどわかるようになってきた。

私は剣道を始めて五十年になる。その間、何度か中断の危機があった。高校時代はイ

ンターハイ出場を夢見て稽古ばかりしていたこともあり、大学に入学後は剣道を少しお休みするつもりだった。しかし、結局は先輩の勧めもあって入部した。内科研修医時代は仕事が忙しく、稽古はほとんど中断していたに等しかった。しかし、米国留学先がサンフランシスコだったこともあり、皮肉なことに研修医時代よりも少し稽古をすることができた。帰国後はまた仕事に忙殺されていたが、昭和五十九年から梯先生

が師範として大学に来られるようになり、これを契機に私の稽古量も少しずつ増えた。した。

梯先生は道場ではいつも厳格のように聳え立ち、掛かっても掛かってもはね返される。稽古をきちんとしないと、結果は歴然である。先生は「一日稽古をしなければ自分がわかる、二日稽古をしなければ相手がわかる、三日稽古をしなければ他人がわかる」と言っておられ、「正、厳、楽」をモットーとされている。

しかし、ある時、私は大病を患うこととなった。これで剣道とはこれで永遠にお別れと思っていた。しかし、病から復帰後にリハビリがてら素振りをしていると、稽古が無性にやりたくなった。防具をつけて新入生の指導を始めたところ、少しずつなら稽古ができるではないか……。以来、少しずつ稽古量を増やし、とうとう週二回までなら稽古ができるようになった。今はどんなに忙しくても、稽古の時間だけは確保することにしている。

剣道でも医学でも、とにかく継続することが肝要である。私も今では学生や研修医に「継続は力なり」と説いている。

鏡山博行

(大阪府剣道連盟会長)



かがみやま・ひろゆき／昭和10年大阪市で生まれる。75歳。剣道は昭和26年兵庫甲南高等学校で野田秀造師範の手ほどきを受ける。大阪大学医学部へ進み宮崎茂三郎、六反田俊雄両師範の指導を受ける。昭和36年卒業。母校の助手、滋賀医科大学助教授を経て昭和55年大阪医科大学教授となる。専門は生化学。この間大阪大学池田勇治、大阪医科大学吉村鼎両師範のもとで稽古を継続し、大阪医科大学剣道部長、関西学生剣道連盟副会長、大阪学生剣道連盟会長を務め、学生剣道の育成にあたった。平成16年定年退職。現在は大阪医科大学師範、医療法人財団兵庫錦秀会西神看護専門学校学校長、(社)大阪府剣道連盟会長、(財)大阪武道振興協会理事長。剣道錬士七段。

打たれたらどうじゃなですか

四十年くらい前になろうか、米国留学から帰国して、その間に母校大阪大学の師範として赴任されていた池田勇治先生に、初めて稽古をお願いした時に頂いた言葉である。稽古の後の第二道場で酒杯片手に伺ったその時の状況は今も鮮明に蘇る。

「四十近いのでしょうか。今のような剣道ではすぐにできなくなる。大人の剣道、王者の剣道を目指さない」

「どうしたらよいのか具体的に説明してい

ただけませんか」

「いいですか。竹刀を交えてにらみ合っている。相手が動く気配を感じた。しかし来なかった。だがその時、こちらの手元がピクリと動いた。心を動かされたわけですね。『参った』です。もうひとつ申し上げましょう。相手が『参った』と頭を下げたとき、腰が少し残りました、少し竹刀に触れました。『もう一本お願いします』という気持ちを持ちなさい。相手に打たれた。軽い、

と思った。しかし、いいところを打たれたわけです。『参った』といいなさい」

そして最後に「打たれたっていいじゃないですか。打ちたい、打たれたくないという気持ち強いから駄目な剣道しかできないのです。打たれたら打ち返せばいい。まったく大さく」と付け加えられた。以後、何度も聞かされた言葉である。

六段、七段を受審前には「打たれてもいいが、無様な打たれ方はするまい。格好よく打たれよう」と口の中で繰り返しながら臨み、好結果につながった。七段の審査では見事な抜き面を食らったが、お相手ともども合格できた。

この言葉を自分の生き様の中で活かすべく、重要な場面面で「打たれてもいいじゃないか」の気持ちで対処しようとする。あるがなかなか難しい。相手から反撃されるのが億劫で、黙って退いてしまい、後悔することの繰り返しである。

稽古の始めにこの言葉をつぶやきながら面をかぶることにしている。一方的に打たれて終わることも多く、「打たれればなしでいいとは言っていない……」との天国からの先生のお叱りが聞こえてくる。がしばしばであるが、それでも稽古が楽しくなっているのはこの言葉のお陰と信じている。よい師を持てた幸せをかみしめている。

中山尚夫

(元桑名市民病院副院長)



なかやま・ひさお／昭和15年三重県生まれ、71歳。昭和37年三重大学医学部弓道部主将のとき、西日本医科学生体育大会弓道の部で団体6連勝。弓道錬士五段。平成10年剣道七段、同11年剣道教士号受領。53歳時に北九州「神武館」3時間立ち切り稽古に挑戦し、果たす。昭和50年より桑名市民病院産婦人科医長、平成2年より同病院副院長を歴任、65歳退職。長年東海学生剣道連盟顧問医師を務め現在に至る。

工夫肝要なり

歯科医だった私の母方の祖父梶山嘉一は、岐阜大垣の出で神道無念流の「目録」を持ち、戦前大垣中学でも大いに活躍した剣道の達人でした。私が物心ついた頃には既に中風で半身不随の身でしたが、元氣な頃に家族に語っていた剣道の言葉があり、それは叔母たちから折々聞かされて私の脳裏深くに刷り込まれています。

その言葉とは「神道無念流目録には『工

夫肝要なり』と書かれている。人間は常に工夫することが大切だ。『横に三寸動けば隙だらけ』、剣道ではたった三寸横に捌けば相手の力はゼロになる。覚えておけ』というものでした。

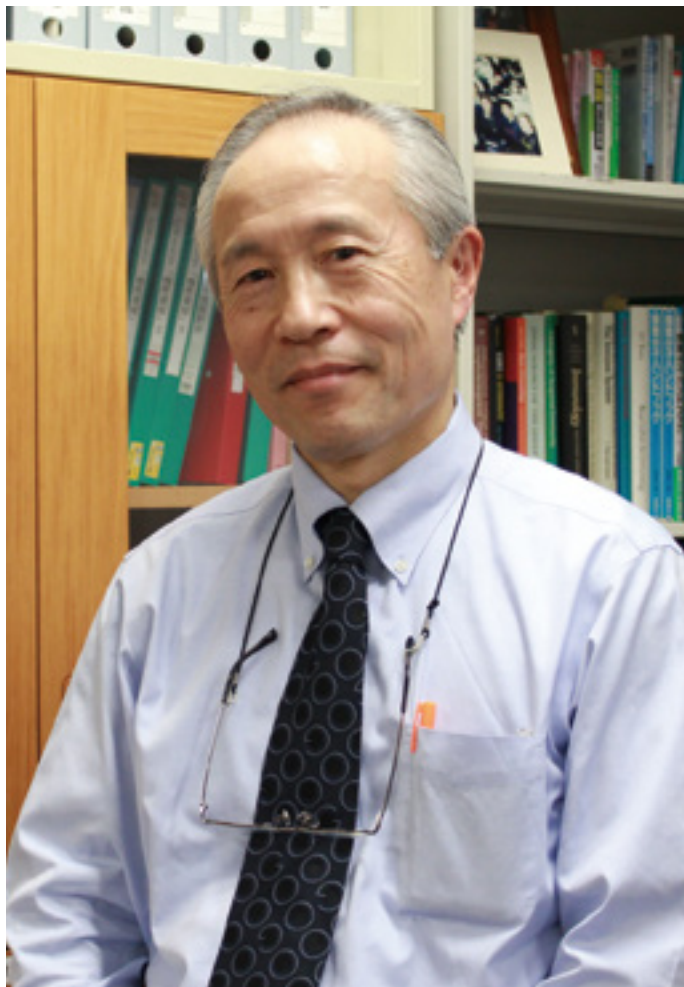
高校一年生で患った膝のオスグット氏病のためにやりたかった剣道は断念して代わりに大学では弓道に没頭し、それなりに立派な成績も残しました。剣道開始は三十二

歳時ですが、弓道の理合は剣道にも大きな影響を与えています。医師剣道大会や社会人剣道例会などで神道無念流中山博道範士のお弟子、中倉清範士との出会いがあったお陰で先生に稽古を頂くようになり、見取り、質問を重ね、熱烈に先生の横の動きと剣風を研究して、それを『中倉清範士語録』の冊子にまとめました。高野佐三郎・中山博道両範士演武の『大日本帝国剣道形』ビデオが二十数年前発売されて以降、何百回となく繰り返し見て、その演武をたどりつつ打・仕太刀合わせて二十本の独り形稽古を昨年までの二十数年間一日も欠かさず続けてきました。不思議なことに七十歳近くになる頃から桜が開花するように、その『形』に隠された刀法、手の内、足捌きなどの理合が急にわかり始め、新しい技の工夫と発見があつて日々是好日です。

神道無念流の「一に足を学べ、二に腰を学べ」の教えの如く、横に三寸動く体の捌きと古流から学ぶ真の刀法によれば、大兵も小兵も対等です。体格、体力の支配する剣道はスポーツであっても武道ではありません。先師たちから学ば生きた刀法と捌きの剣道を一人でも多くの方に知ってほしいものと念じます。

宮坂昌之

(大阪大学未来戦略機構・特任教授)



みやさか・まさゆき／昭和22年9月18日、長野県上田市生まれ、64歳。上田高から京都大医学部に進み、オーストラリアに留学。その際にオーストラリア国立大学剣道部を創設。その後、スイス、東京都の研究所を経て、大阪大学医学部教授となる。専門は免疫学。剣道は中学時代から始め、高校時代はインターハイに出場する。現在、大阪大学未来戦略機構・特任教授。剣道錬士七段

夢みて行い考えて祈る

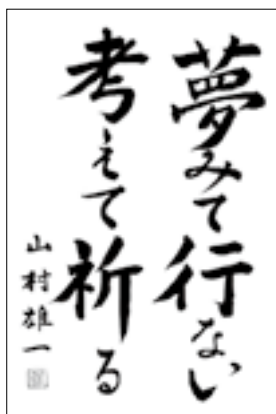
この言葉は元大阪大学総長の山村雄一先生（1918～1990）によるものである。

山村先生は初代の日本免疫学会・会長で、日本の免疫学を世界的なレベルにまで引き上げられた方である。私のお阪大赴任時には既にお亡くなりになっていたので、直接の薫陶は受けなかったが、阪大には山村先生のお弟子さんが多くおられ、この言葉を知る機会があった。色々な解釈があるかもしれないが、私は次のように考えている。すなわち、自分

が一生懸命やろうとすることには、高い志をもつて実行する（夢みて行う）ことが大事である。実行の過程では本心に正しいことができるのかを自ら振り返り、後はうまく行つて欲しいと念ずる（考えて祈る）真摯な心が必要である。山村先生はある時に「人生には必要なものがある。それは、夢とロマンと反省だ」と言っておられたことを考えると、この解釈はあながち外れていると言えなからう。学問の世界でも剣道の世界でも同様のこと

があるように思う。いずれの場合にも、志、夢があつて初めて努力すべき道筋と到達すべき目標が見えてくる。しかし、ただひたすら頑張つても目標には達せず、むしろ失敗のほうが多い。その時に大事なものは「なぜ失敗するのだろうか？」「なぜ失敗したのだろうか？」と考えることであり、さらには、失敗を乗り越えるためにはどうしたらいいのだろうか？と考える心である。そしてベストを尽くした時には、あとはうまく行つて欲しいと念ずることである。

私が大阪の箕面武道館で師事する園田政治先生（元大阪府警主席師範）からは、「いつまでたつても悪い癖が直らない。お医者さんは人の言うことを聞かんから悪い」とよく辛口のコ멘トをいただいている。もともとどうもくなりたいという夢はあるものの、努力が足りないことと、真摯な反省の念が足りないであろう。山村先生の言葉を見ては、ひたすら自省する次第である。



山村雄一先生手書きの書

私の好きな言葉

143

十河勝正

(医療法人そごう会・そごう心療内科クリニック理事長)

あるがまま

私の好きな言葉である。大学一年生の時に、鎌倉の円覚寺に一週間座禅をした経験がある。その時に、禅僧から「あるがまま」という言葉をはじめて教わった。それ以来、何となくこの言葉に強く心が惹かれた。

日本のフロイドと言われた高知県の出身で森田生馬^{まさたけ}という精神科の先生が「あるがまま」という禅の言葉に心を惹かれ、日本独特

の精神療法である森田療法を一九二一年に構築された。物事があるがままにとらえる事、つまり、物事を気分本位から事実本位に「あるがまま」に捉える事の大切さを説かれた。

不安障害の患者さんは不安と言う心の現象を病的なものと思い込み、取り除こうとして苦しむが、不安を病的なものと思えるのではなく、誰でも起こって来る正常な心の現象と捉

えて、あるがまま、不安と言う相手と合気になり、不安の波に乗る事が大切である事を論された。そして、その事を自力で体得をする事が肝要であると論された。森田先生は剣道で言う事理一致の大切さも論された。

一方、アメリカの精神科医アーロン・ベックは人間には、それぞれ、思い込み（認知のゆがみ）、思考のパターン（自動思考）、スキーマ（既有知識）があり、それらがマイナスの方向に働いた場合、認知の歪みを生じて心の病を生じると考えた。それらを修正する事によって心の病を治療する精神療法・認知行動療法を一九六三年に見出した。現代の精神療法の中心的治療となっている。

この治療の根幹は森田療法と同じで、認知の歪みを治して、気分本位の認知の歪みを事実本位の「あるがまま」の認知に変える事である。理論的であるが、森田療法に比べて事理一致にやや欠けている気がする。

「あるがまま」は私の好きな言葉である。そうありたいと願っている言葉である。医道・剣道・人生においても「あるがまま」でありたい。しかし、五感を持った人間は悟りを開く事は至難の業である。悟りの悟りに少しでも近づける事を目標にして生きて行ける事を願って、喜寿を迎えた私の願いとした。



そごうかつまさ／昭和13年名古屋生まれ広島県呉市育ち、76歳、昭和38年東京医科大学医学部卒業。同大学精神神経科入局、初代教授、島崎敏樹先生（島崎藤村の甥）に師事。医療法人そごう会・そごう心療内科クリニック理事長・剣道教士七段・広島医療剣道クラブ名誉会長、38歳から剣道を始める。第16回全日本医師剣道大会個人優勝・日本精神神経学会専門医・指導医・精神保健の部で厚生労働大臣賞・市政功労賞を受賞。

私の好きな言葉

184

林 明人

(順天堂大学医学部・教授)



はやし・あきと／昭和31年、鹿児島県国分市（現・霧島市）生まれ、60歳。城西中学剣道部入部。鶴丸高校から順天堂大学に進む。米国ウィスコンシン州立大学准教授、筑波大学を経て、順天堂大学医学部教授。専門はリハビリテーション医学（順天堂大学浦安病院教授）、脳神経内科（順天堂医院教授併任）。日本運動障害研究会会長。学生時代に全日本医科学学生剣道大会団体優勝。医師となり全日本医師剣道大会団体優勝。全剣連強化訓練帯同医師。茨城国体大将の部強化選手。つくば市自燈剣道スポーツ少年団指導者。順天堂大学剣道部OB OG会長。全日本医師剣道連盟事務局長。剣道五段。

仁と斌

二十四歳で医師となり三十六年の月日が経ちました。大学卒業後二十年間竹刀を握ることなく過ごしていましたが、息子が剣道を始めるのに乗じ四十四歳から剣道を再び始めました。再開してまもなく見学に行った土浦警察の道場で九十四歳の剣道家が中学生と向かいあう姿を偶然に目にしました。その際に自分もあと五十年も剣道ができるのではないかと思ひ勇気をもらいました。その剣道家は

医師でもある大柵一郎範士八段でした。私の好きな言葉としたのは座右の銘である仁と斌です。仁（JIN）は、「医は仁術なり」の仁であり順天堂大学の学是でもあります。人がふたりと書いて仁、人（に）在（に）りて我（が）在（に）り、他（た）を思いやり慈しむ心、これ即ち「仁」。合気を肝要とする剣道の活人剣に通じるものです。もう一つは斌（BIN）、文武両道の文武と書きます。茨城の那須亀教士七段から教えて

いただいた言葉ですが、外形と内面の両方が調和し充実しているさまを表しています。仁の心をもって剣道を通して社会の中で人と関わることは、お互いを元気にするパワーのやりとりにつながり、斌の精神は内面的にも身体的にも自己を充実させることにつながります。国体出場や八十歳までに八段取得など勝負や昇段の目標を立て励みとしていますが、何よりも己が剣道で追い求めるのは何であるかを見失わないようにすることを心掛けています。

人生や剣道の修養は山登りと似ています。日々の稽古では反省することが多くなかなか上達できず山登りの途中で道に迷うような心境になることがあります。そのようなときにこそ、仁と斌の言霊を胸に抱き、山の頂きを目指して不断前進の姿勢で一步でも前に進んでいきたいものです。いつの日か造花ではない本物の香り立つ花のような剣道ができることを夢に見ています。

地元の茨城県剣道連盟・故郷の鹿児島県剣道連盟・全日本医師剣道連盟や全日本剣道連盟の関係などの多くの剣道家の皆様との交剣知愛・ご指導に感謝するとともに、「医剣一如」の心で医学の道と生涯剣道に励み、人生を豊かにしてくれる「今ふたたびの剣道」を楽しんでいきたいと思ひます。

事務局からのお知らせ

- 1) 2019 年 5 月の東京大会詳細は全医剣連ホームページ

(<http://japan-medical-kendo.jp>)にて確認下さい。

全日本医師剣道連盟事務局

〒305-0044 茨城県つくば市並木 3-23-25 林明人

Tel & Fax: 029-855-7446

専用メールアドレス: info@japan-medical-kendo.jp

住所・段位・称号の変更などのお知らせは次のページの用紙をご使用するか、上記のメールアドレスでご連絡下さい。

- 2) **年会費（1 万円）**を会員各自、下記銀行にお振り込みの程、よろしくお願い致します。事務局の変更に伴い、銀行口座も変更となっておりますので、ご注意下さい。なお、振り込みの際には、最初にお名前をお書きください。

みずほ銀行・新浦安支店 (342)
普通口座 1984793
全日本医師剣道連盟
(ゼンニホンイシケンドウレンメイ)

- 3) ご寄付にご賛同の会員の先生は、

年会費に追加して上記銀行口座にお振り込み下さい。

ご案内

全日本医師剣道連盟創立 60 周年記念ロゴマーク、ピンバッチ、ポロシャツ
の作製/販売を企画しましたので、お知らせします。

- 1) 60 周年記念ロゴマークとロゴのステッカー 会員には無料配布



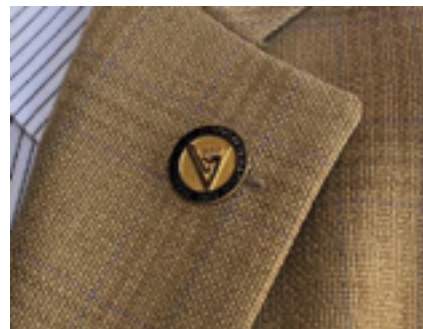
これまでのロゴをベースにデザイン (designed by A Hayashi)

- 1) 60 周年記念ピンバッチ 2000 円

ピンバッチは全日本医師剣道連盟会員の矜持のシンボルです。



直径 22 mm 黒/金のピンバッチ



2) 吸汗速乾ポロシャツ（昇華プリント） 6000 円

剣道の稽古や医務室業務にピッタリです。

左胸にロゴマーク、左袖に日の丸に面、紅白トンボを襟と前立てにデザイン。



4) 刺繍ポロシャツ（綿 100% 鹿の子織り） 10000 円

刺繍ポロシャツを白と黒の2パターン。上にジャケットを着ても似合います。



創立 60 周年記念商品は東京大会での期間限定販売を予定しています。

皆様、是非、お買い求めください！

全日本医師剣道大会記録

回次	開催年月日	開催地	備考
第 53 回	H30/04/14-15	北上総合体育館	大会会長：菅 義行 実行委員長：川上 格 事務局長：茂木 隆
第 52 回	H29/04/08-09	高知県立武道館	大会会長：谷木利勝 実行委員長：枝重恭一
第 51 回	H28/04/2-3	茨城県つくば市（つくばカピオ）	大会会長：大柁廣伸 実行委員長：林 明人
第 50 回	H27/04/11-12	京都市武道センター	大会会長：吉村了勇 実行委員長：西本知二
第 49 回	H26/06/05-	長崎県立総合体育館サブアリーナ	大会会長：萬木信人 実行委員長：吉田善春
第 48 回	H25/06/22-	仙台市青葉体育館	大会会長：今村幹雄 実行委員長：渡邊哲子
第 47 回	H24/04/07-	鳥取（鳥取県立武道館）	大会会長：飯塚幹夫 実行委員長：湯村正仁
第 46 回	H23/04/09-	東京 東日本大震災により中止	大会会長：伊藤元明 運営委員長：荻原幸彦
第 45 回	H22/04/10-	三重（県営サンアリーナ）	大会会長：中山尚夫
第 44 回	H21/05/23-	千葉（千葉ポートアリーナ）	大会会長：遠山富也 実行委員長：西嶋浩 事務局長：長尾啓一
第 43 回	H20/04/19-	兵庫（兵庫県立武道館）	大会会長：松井英互 運営委員長：佐藤義典
第 42 回	H19/04/07-	大阪（豊中市立体育館）	大会会長：宮坂昌之 事務局長：西本 孝
第 41 回	H18/04/15-	神奈川（相模女子大体育館）	大会会長：野見山延
第 40 回	H17/04/16-	大分	大会会長：広瀬信道 運営委員長：河野信一
第 39 回	H16/04/17-	大阪（大阪コスモスクエア国際交流センター）	大会会長：鏡山博行 運営委員長：長野拓三
第 38 回	H15/04/05-	福岡（宗像ユリックス）	大会会長：加野資典
第 37 回	H14/09/14-	札幌（札幌市総合体育館）	大会会長：道下俊一
第 36 回	H13/04/14-	熊本（熊本大学総合体育館）	大会会長：笹原 登 事務局長：由布雅夫
第 35 回	H12/04/15-	広島（広島県立総合体育館武道場）	大会会長：十河勝正 大会副会長：瀬尾憲司 運営委員長：渋川哲治
第 34 回	H11/04/03-	東京（東京医科大学記念会館）	大会会長：山崎 衛 運営委員長：伊藤元明
第 33 回	H10/11/21-	鹿児島（鹿児島アリーナ）	大会会長：楠元忠雄 実行委員長：諸木浩一
第 32 回	H9. 9. 14	岩手（岩手県営武道館）	大会会長：中村好和 実行委員長：小西 一
第 31 回	H8. 9. 22	沖縄（沖縄県立武道館）	大会会長：永山 薫 運営委員長：永山盛隆
第 30 回	H7. 4. 9	愛知（江南市民会館）	大会会長：村瀬守男 運営委員長：吉尾 豪
第 29 回	H6. 10. 16	東京（東京医科大学記念会館）	大会会長：宮地 誠 大会副会長：山崎 衛 運営委員長：伊藤元明
第 28 回	H5. 10. 10	福岡（県立久留米体育館）	大会会長：熊丸 治 運営委員長：加野資典
第 27 回	H4. 9. 27	高松（高松市総合体育館）	大会会長：畠瀬 修 運営委員長：伊藤保憲
第 26 回	H3. 4. 17	京都（京都市武道センター）	大会会長：横関誠夫 運営委員長：横関保彦
第 25 回	H2. 9. 23	茨城（つくば第 3 県民センター）	大会会長：大禰一郎
第 24 回	H1. 9. 15	仙台（県武道館）	大会会長：鈴木仁一
第 23 回	S63. 9. 11	米子（市民体育館）	大会会長：中曽栄吾
第 22 回	S62. 4. 4	東京（東京医科大学記念会館）	大会会長：大禰一郎
第 21 回	S61. 9. 14	京都（京都市武道センター）	大会会長：根本浩介
第 20 回	S60. 9. 15	千葉（千葉県武道館）	大会委員長：綿貫重雄
第 19 回	S59/10/27-	岡山（岡山武道館）	大会委員長：日下 連
第 18 回	S58. 4. 9	大阪（久保田鉄工中央体育館）	大会委員長：中村周吉郎

全日本医師剣道大会の記録			
第 17 回	S57. 10. 10	広島（麒麟ビール広島工場体育館）	大会委員長：藤井 実
第 16 回	S56. 11. 7	静岡（市民体育館）	大会委員長：内田智康
第 15 回	S55. 5. 25	長崎（市民体育館）	大会委員長：前田信良
第 14 回	S54. 4. 8	東京（東京慈恵会医科大学体育館）	大会委員長：海老原千春
第 13 回	S53. 9. 23	名古屋（愛知県スポーツ会館）	大会委員長：三輪田薫
第 12 回	S52. 11. 13	下関（市立山ノ田中学校体育館）	大会委員長：桃崎正香
第 11 回	S51. 5. 16	新潟（県立総合体育館）	大会委員長：外山司郎
第 10 回	S50. 4. 6	京都（武徳殿）	
第 09 回	S49. 5. 25	熊本（県武道館）	大会委員長：笹原 登
第 08 回	S48. 10. 13	札幌（札幌体育館）	大会委員長：内藤詩郎
第 07 回	S47. 9. 15	高知	大会終了後の会議にて 高岡謙次先生が連盟会長
第 06 回	S46. 4. 3	東京（日本武道館）	大会会長：伊藤京逸
第 05 回	S45. 10. 24	京都（武徳殿）	大会会長：高岡謙次
第 04 回	S44. 8. 15	仙台（県立スポーツセンター）	大会会長：松川金七
第 03 回	S43. 2. 18	東京（衆議院第一議員会館剣道場）	大会会長：伊藤京逸
第 03 回	S42. 4. 1	名古屋（名鉄体育館）	大会会長：伊藤京逸
第 02 回	S38	大阪（大阪城内・修道館）	大会会長：伊藤京逸
第 01 回	S34	東京（後楽園・全剣連・中央道場）	初代連盟会長：伊藤京逸

今後の大会開催予定地

2019 年 第 54 回 東京大会（稲村征夫先生）
 2020 年 第 55 回 沖縄大会（奥島憲彦先生）
 2021 年 第 56 回 岡山大会（山本晋一郎先生）
 2022 年 第 57 回 新潟大会（荻荘則幸先生）
 2023 年 第 58 回 未定（日本医学会総会は東京）

幹事会メンバー（平成 31 年 2 月時点、順不同、敬称略）

朝日 茂樹、飯塚 幹雄、池澤 清豪、石井 靖隆、伊藤 保憲、稲村 征夫、
 今村 幹雄、枝重 恭一、大柵 廣伸、奥島 憲彦、鏡山 博行、笠松 紀雄、
 加野 資典、菅 義行、新藤 寛、十河 勝正、谷木 利勝、中島 進、
 長野 拓三、中山 尚夫、野見山 すすむ、濱 弘樹、林 明人、日高 久光、
 堀江 貴、箕田 修治、宮坂 信之、宮坂 昌之、森 能史、守 正美、
 萬木 信人、諸木 浩一、山本晋一郎、湯村 正仁、吉村 了勇

会員登録・変更について

1. FAX する。 029-855-7446

連盟専用 e-mail : info@japan-medical-kendo.jp

入会、退会、ならびに連絡先・段位・称号・連絡手段などに変更がある場合、以下に記載して、下記のいずれかの方法で連盟事務局にお知らせ下さい。

2. に添付して送る。

3. 郵送する。 送付先：〒305-0044 茨城県つくば市並木3丁目23-25

全日本医師剣道連盟事務局 林明人

いずれかに○	入会・退会	段位・称号変更	住所変更	電話番号変更	メールアドレス変更
--------	-------	---------	------	--------	-----------

以下のすべての項目に記載し、変更点のある場所を大きい○で囲ってください。

ふりがな			生年月日	年	月	日
氏名			出身大学	学部		
			段位		称号	

連絡先住所 (郵便物送付先)		〒	-
いずれかに ○	自宅		
	勤務先		
	固定電話		
	携帯電話		
	メールアドレス1		
	メールアドレス2		

以下の欄には、連盟に知らせたいこと等を、ご自由にお書き下さい。

編集後記

全日本医師剣道連盟が 1959 年（昭和 34 年）に創立され、60 年の歳月が流れました。本連盟が還暦を迎えたことは大変に意味深いことと感じております。先賢の先生方の剣道への想いが引き継がれ、今を生きる会員の皆様によってその歴史が繋がれ、新たな歴史が紡がれております。

今回の年報は会員の皆様に加えて、全国の医学部剣道部にも配布する予定です。大学を卒業後に医師剣道家として生涯剣道を実践している会員の皆様の姿を学生諸君にも知ってもらい、引き継いで次世代を担ってほしいとのメッセージを伝えたいとの思いからです。

掲載内容として、稲村征夫先生に東京で開催されます第 54 回どんとこい東京大会のご案内を、菅義行先生、川上格先生にいわて北上大会のご報告をいただきました。

特別寄稿といたしまして、第 52 回茨城つくば大会で審判長をお願いしました筑波大学名誉教授の佐藤成明先生に「剣道の国際化」をテーマに玉稿をいただきました。佐藤成明先生は第 16 回世界剣道大会の審判長の大役も務められ、剣道の国際化について多方面からの視点でご執筆いただきました。会員の皆様にご参考になる貴重な素晴らしい内容です。

野見山すすむ先生に「剣道における医師の役割」をテーマでお願いし、味わい深いエッセイをいただきました。篠塚義智先生に「国際大会に参加して」をテーマにお願いし、多岐にわたる剣道を楽しむ先生の剣道人生の一端を描いていただきました。原稿をいただきました皆様の剣道に打ち込む心が伝わる文面です。

さらに、全日本剣道連盟の剣窓に掲載されました大柵廣伸先生の剣筆や月刊剣道時代の好きな言葉シリーズに掲載されました 7 名の会員の皆様、伊藤元明先生、宮坂信之先生、鏡山博行先生、中山尚夫先生、宮坂昌之先生、十河勝正先生、林明人のご紹介をさせていただきました。転載許可をいただきました全日本剣道連盟ならびに剣道時代の関係の皆様にあらためまして感謝いたします。

さて、創立 60 周年記念ということで新しいロゴマークでのピンバッチ、ポロシャツを作りました。ピンバッチは全日本医師剣道連盟の矜持のシンボルです。会員の皆様が医師剣道家として誇らしく連帯感を持って、胸を張って身に纏えるものでありつづけるように願いをこめました。また、ポロシャツは使い勝手のよい吸汗速乾ポロシャツと洒落た刺繍ポロシャツの 2 種類です。剣道大会などの医務室や上にジャケットを着たりして楽しんでいただきたいと思います。会員皆様の剣道人生がより豊かであることを祈念いたします。

編集 林 明人

